



# 令和7年度 青森市子ども会議 活動報告書



令和7年度青森市子ども会議フォーラム2025  
FOR CHILDREN  
～子どもをてらそう！<sup>けんり</sup>Rightで明るいまちへ～  
【令和7年11月16日（日）開催】

## ～ もくじ ～

### ◆ 青森市子ども会議活動報告

令和7年度の活動	・・・	1
事前顔合わせ会開催概要	・・・	3
臨時会議開催概要	・・・	5
臨時会議その2開催概要	・・・	7
第1回開催概要	・・・	8
子ども会議 in 子どもの祭典開催概要	・・・	12
第2回開催概要	・・・	14
第3回開催概要	・・・	16
子ども会議 in 青森ねぶた祭開催概要	・・・	18
第4回開催概要	・・・	19
第5回開催概要	・・・	21
第6回開催概要	・・・	22
第7回開催概要	・・・	24
第8回開催概要	・・・	26
第9回開催概要	・・・	28
第10回開催概要	・・・	29
第11回開催概要	・・・	30
青森市子ども会議フォーラム2025 FOR CHILDREN	・・・	32
～子どもをてらそう！Rightで明るいまちへ～ 開催概要		
第12回開催概要	・・・	50
第13回開催概要	・・・	52
第14回開催概要	・・・	53
青森市子ども会議 in 青森市営バス100周年記念セミナー開催概要	・・・	55
青森市子ども会議活動報告会開催概要	・・・	58

◆ 令和7年度青森市子ども会議委員・青森市子どもサポーター名簿	・・・	63
---------------------------------	-----	----

◆ 青森市子どもの権利条例	・・・	64
---------------	-----	----

青森市では、「子どもの権利条例」に基づき、市政などについて、子どもが意見を表明し参加する場として、青森市子ども会議を設置しています。

## 令和7年度の活動

回	開催日	内容	参加人数
事前顔合わせ会	R7. 4. 26(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森市子ども会議について、自己紹介</li> <li>子どもの権利に関する講義</li> <li>令和7年度活動テーマについて</li> <li>子どもの権利普及啓発Tシャツについて</li> </ul>	子ども会議委員 17名
臨時会議	R7. 5. 11(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの権利普及啓発Tシャツについて</li> <li>第1回青森市子ども会議に向けて</li> <li>浪岡子どもの祭典について</li> </ul>	子ども会議委員 16名 子どもサポーター1名
臨時会議 その2	R7. 6. 14(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「青森市子どもの権利の保障に関する行動計画」に係る意見聴取</li> <li>グループ活動</li> <li>浪岡子どもの祭典に向けて</li> </ul>	子ども会議委員 16名
第1回	R7. 6. 28(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市長報告リハーサル</li> <li>市長報告</li> <li>浪岡子どもの祭典に向けて</li> </ul>	子ども会議委員 14名
子どもの祭典	R7. 7. 6(日)	子どもの権利等に関する出張普及啓発活動	子ども会議委員 17名
第2回	R7. 7. 22(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森ねぶた祭に向けて</li> <li>グループ活動</li> </ul>	子ども会議委員 12名
第3回	R7. 7. 30(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動</li> <li>青森ねぶた祭に向けて</li> </ul>	子ども会議委員 10名
青森ねぶた祭	R7. 8. 2(土)	青森ねぶた祭における子どもの権利普及啓発活動	子ども会議委員 23名 子どもサポーター1名
第4回	R7. 8. 6(水)	グループ活動	子ども会議委員 11名 子どもサポーター1名
第5回	R7. 8. 18(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>モヤヒルズの見学</li> <li>三内丸山遺跡の見学</li> </ul>	子ども会議委員 9名 子どもサポーター3名
第6回	R7. 8. 23(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会議フォーラムに向けて</li> <li>子どもの権利に関する講義</li> <li>グループ活動</li> </ul>	子ども会議委員 9名 子どもサポーター1名
第7回	R7. 9. 6(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会議フォーラムに向けて</li> <li>グループ活動</li> </ul>	子ども会議委員 8名

回	開催日	内容	参加人数
第8回	R7. 9. 28(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バスの音声案内について</li> <li>・グループ活動</li> <li>・子ども会議フォーラムに向けて</li> </ul>	子ども会議委員 10名
第9回	R7. 10. 5(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森市民図書館の展示タイトルについて</li> <li>・子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成</li> <li>・子ども会議フォーラムに向けて</li> </ul>	子ども会議委員 9名
第10回	R7. 10. 26(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動</li> <li>・子ども会議フォーラムに向けて</li> </ul>	子ども会議委員 13名
第11回	R7. 11. 9(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バスの音声案内録音</li> <li>・子ども会議フォーラムに向けて</li> </ul>	子ども会議委員 11名
フォーラム	R7. 11. 16(日)	青森市子ども会議フォーラム 2025 FOR CHILDREN ～子どもをてらそう！ けんり Rightで明るいまちへ～	子ども会議委員 15名
第12回	R7. 12. 21(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森市子ども会議フォーラムの振り返り</li> <li>・グループ活動</li> <li>・子どもの権利トークイベントに向けて</li> </ul>	子ども会議委員 13名 子どもサポーター1名
第13回	R8. 1. 24(土)	子どもの権利トークイベントに向けて	子ども会議委員 7名
第14回	R8. 2. 21(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バス 100周年記念セレモニーに向けて</li> <li>・活動報告会に向けて</li> <li>・グループ活動</li> </ul>	子ども会議委員 6名 子どもサポーター1名
青森市営バス 100周年記念 セレモニー	R8. 3. 8(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森市営バス 100周年記念セレモニーに向けて</li> <li>・青森市営バス 100周年記念セレモニー</li> <li>・活動報告会に向けて</li> </ul>	子ども会議委員 13名 子どもサポーター2名
活動報告 会	R8. 3. 14(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度青森市子ども会議活動報告会</li> <li>・今年度の活動を振り返って</li> </ul>	子ども会議委員 16名 子どもサポーター1名

## 令和7年度 青森市子ども会議 事前顔合わせ会

- 1 日 時 令和7年4月26日(土) 9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員17名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) 青森市子ども会議について・自己紹介  
(2) 子どもの権利に関する講義  
(3) 令和7年度活動テーマについて  
(4) 子どもの権利普及啓発Tシャツについて

### 5 開催概要

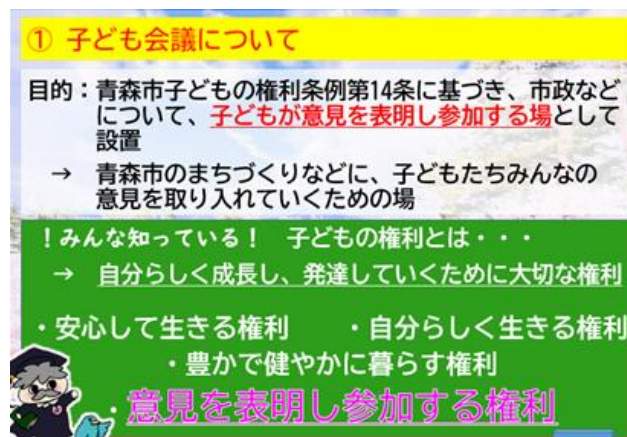
青森市子ども会議は、青森市子どもの権利条例第14条に基づき、まちづくりをはじめとした市政などについて、子どもが意見を表明し参加する場として設置され、小学5年生から原則18歳までの子どもたちで構成されています。

今年度は、子ども会議委員29名(小学生13名、中学生10名、高校生6名)と、子どもたちの活動をサポートする子どもサポーター3名(学生3名)で活動をスタートしました。

#### 青森市子ども会議について・自己紹介

はじめに、事務局から青森市子ども会議について説明がありました。青森市子ども会議は、子どもの権利の4つの柱の中で「意見を表明し参加する権利」を特に大事にして、主に、青森市のまちづくりなどを調査したり、子どもの権利について学び、みんなにも知ってもらうための活動を行ったりしています。令和6年度は、「進化し続ける青森市」をテーマに様々な活動を行ったことや、これまでに子ども会議フォーラムで表明した意見が青森市のまちづくりに実際に取り入れられた例など紹介してもらいました。

次に、自己紹介を行いました。青森市の好きなところや今年度やりたいこと、好きなものもあわせて発表しました。



### 子どもの権利に関する講義

次に、子どもの権利擁護委員の関谷道夫先生から、初めて顔を合わせた子ども会議委員の緊張をほぐすため、アイスブレイクを含めた子どもの権利に関する講義をしてもらいました。

アイスブレイクでは、出来るだけ多くの人と握手をするゲームや、ペアになった人の素敵だと思ったところをすぐに見つけて3つ言い合う「いいところ探しゲーム」を行いました。



他にも、「最近あった良かったことや気づいたこと」、「今一番大切な人」などのさまざまな質問に答えて、全員で拍手をする「Good & New (グッドアンドニュー)」を行いました。

### 令和7年度活動テーマについて

続いて、高校生委員の進行のもと今年度の活動についてみんなで話し合いました。まず、一人ずつ今年度やりたいことについて発表し、同じような意見ごとにグループ分けをしました。8つに分けたグループの中からさらに共通点を探し、「観光・まちづくり」について取り組むグループ、「子どもの権利」について取り組むグループの2グループに分けることができました。



#### <出された主な意見>

観光・まちづくり	子どもの権利
・外国の方へ魅力を発信	・子どもの声を届ける仕組みづくり
・冬でもより過ごしやすい青森市に	・子どもの権利相談センターの紹介
・青森市ならではの仕事を体験	・ラッピングバスで子どもの権利をPR
・特産物をコラボでPR	・他都市の子ども会議と交流
・ねぶた祭をInstagramでPR	・スポーツイベントで子どもの権利を周知
・バスツアー(観光名所など)	・子どもの意見ボックスを作成

### 子どもの権利普及啓発Tシャツについて

最後に、今年度のTシャツのデザインについて話し合いました。みんなに事前に考えてきてもらったデザイン案の中から1人1つ好きなものに投票してもらいました。票数の多かったデザインにすることとし、色などについて、次回の会議で話し合います。



## 令和7年度 青森市子ども会議 臨時会議

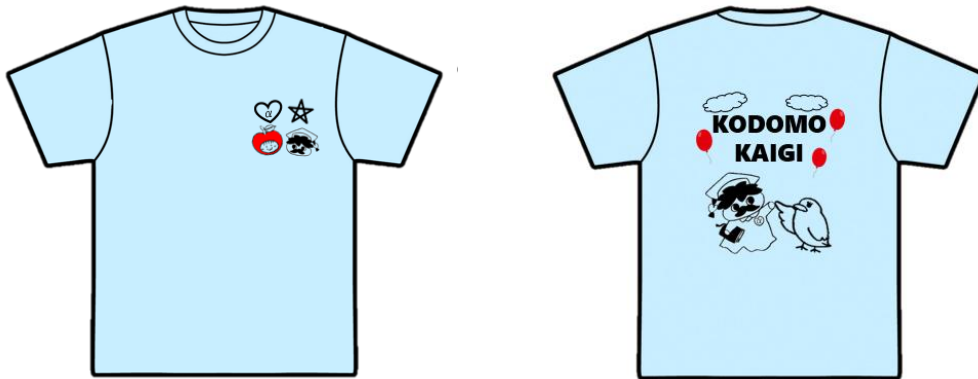
- 1 日 時 令和7年5月11日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員16名、子どもサポーター1名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) 子どもの権利普及啓発Tシャツについて  
(2) 第1回青森市子ども会議に向けて  
(3) 浪岡子どもの祭典について

### 5 開催概要

第1回会議と浪岡子どもの祭典に向けて、臨時会議を開催しました。6月に行われる第1回子ども会議に向けていろいろと決めることもあり、みんなで意見を出し合うことから始めました。

#### 子どもの権利普及啓発Tシャツについて

前回、みんなで投票して決めたデザイン案を確認し、Tシャツの色決めをしました。色の見本を確認した後、意見を出し合いました。ライトイエロー、青色系、緑色系、ライトブルーの4つの意見があり、多数決をとったところ、風船が映える空をイメージしたライトブルーに決定しました。さらに、みなとまち・あおもり誕生400年記念ロゴマークを入れたいという意見があり、これはパッチをTシャツに付けることにしました。



#### 第1回青森市子ども会議に向けて

前回の会議では、「観光・まちづくり」について取り組むグループ、「子どもの権利」について取り組むグループの2つのグループで活動を行うことにしました。今日は、6月に行われる第1回子ども会議に向けて活動テーマや発表内容、役割を決めていきます。

まずは、今年度の活動テーマについて話し合いました。様々な意見が出た中から、今年度取り組む内容を踏まえ、青森市民だけでなく観光に来た人たちみんなが青森市を誇りに思い、楽しんでもらい、笑顔になってほしいということから「笑顔あふれる青森市」に決定しました。

次に、今年度の抱負について話し合いました。今年度の活動テーマにある「笑顔」をキーワードとして、①「みんなで助け合って活動して青森市を笑顔で満開にしよう!」、②「子どもの権利と

青森市の魅力を大切に笑顔あふれる青森市にしよう！」、③「みんなが笑顔になれるように楽しく笑顔で活動しよう！」、④「青森市が笑顔であふれるように自分たちで考えて実行しよう！」の4つの中から選ぶことになり、投票の結果、②の「子どもの権利と青森市の魅力を大切に笑顔あふれる青森市にしよう！」に決定しました。

次に、司会やスライドの発表者などの役割を決めました。みんな積極的に立候補してくれたため、すぐに役割が決まりました。司会者とスライドの発表者は特に立候補者が多かったですが、今回役割が決まらなかった委員もこれからまた、たくさん立候補してほしいと思います。

役割の決まった委員は後ほど、司会・発表の原稿の確認やスライドの修正、本番に向けた練習を行うこととしました。

### 浪岡子どもの祭典について

続いて、7月6日（日）に予定している浪岡子どもの祭典で自分たちが運営するブースについて、何をやるか意見を出し合いました。

昨年度もやったクイズラリー、的あてゲーム、スノードーム作りのほか、以前やったことのあるスタンプラリーと、今回新たにキーホルダー作りをやることに決めました。的あてゲームは、昨年度とは違い、割り箸で作った鉄砲を使うことで力の差に関係なく楽しめるようにしようということになりました。次回以降、みんなで詳細を決めて準備を頑張りたいと思います。

この後、第1回会議の役割が決定した委員とそれ以外の委員との2つのグループに分かれ、第1回会議の役割のある委員はさらに役割別に分かれて作業を行いました。司会者は原稿を確認し、当日の流れがスムーズになるように原稿に書き込みをしながら練習しました。スライドの発表者は原稿のうち、それぞれの発表する分担を決め、練習を行いました。スライド操作の担当者は、スライドに自分で選んだイラストや写真を挿入し、さらに磨きをかけました。



もうひとつのグループは、浪岡子どもの祭典のブースで展示する「青森市子ども会議について」「今年度の活動について」「子どもの権利について」の3つの模造紙を、昨年度のものを参考に新たに作成しました。みんなで決めた今年度のテーマや子どもの権利などについて来場者にPRするため、イラストを入れたりして工夫しました。完成はまだできませんでしたが、次回で仕上げたいと思います。



## 令和7年度 青森市子ども会議 臨時会議その2

- 1 日 時 令和7年6月14日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター1階 研修室
- 3 出席者 子ども会議委員16名、事務局3名
- 4 活動内容 (1)「青森市子どもの権利の保障に関する行動計画」に係る意見聴取  
(2) グループ活動  
(3) 浪岡子どもの祭典に向けて

### 5 開催概要

「青森市子どもの権利の保障に関する行動計画」に係る意見聴取のためのアンケートを行った後に、グループ活動と来月に行われる子どもの祭典に向けて、準備を行いました。

#### 「青森市子どもの権利の保障に関する行動計画」に係る意見聴取



「青森市子どもの権利の保障に関する行動計画」は、子どもにとって大切な権利が守られるために、市が何をしたらよいか具体的に書かれた計画のことです。この計画がきちんと進んでいるかを確認するため、子ども会議委員の意見を聴く場が設けられました。みんな事務局からの説明を静かに聞き、アンケート用紙に真剣に記載していました。

#### グループ活動

事務局から今年度の子ども会議フォーラムに向けてのスケジュールや進め方について説明の後、まず「観光・まちづくり」グループと「子どもの権利」グループに分かれて活動することに決まっていたので、2つのグループに分かれました。

次に、将来、より良い青森市にしていくためにどんなことを市に意見表明したいのか、それらを調査研究するためにどんな活動をしていくのかを高校生委員の進行のもと話し合いました。限られた時間の中でみんなが話し合いに参加し、たくさんの意見が出ました。そして、各グループで話し合った内容を発表しました。次回以降、詳しい活動内容やグループ名についても決めていきたいと思えます。



#### 浪岡子どもの祭典に向けて

前回の会議で出た意見をもとに運営ブースで何をやるか最終決定をしました。各ブースの担当者を決めた後、当日の休憩に入る順番を決めました。最後に、それぞれのブースの遊び方や足りないものを確認しました。受付・スタンプラリー・アンケート担当はアンケートの内容を決めたり、的あてクイズ担当はクイズの内容を決めたりしました。実際にスノードームも作ったりして、当日の役割をシミュレーションしながら自分たちでも楽しみました。

## 令和7年度 第1回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年6月28日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市役所本庁舎 1階サードプレイス・3階会議室
- 3 出席者 子ども会議委員14名、事務局4名
- 4 活動内容
  - (1) 市長報告リハーサル
  - (2) 市長報告
    - 1 開会
    - 2 市長あいさつ
    - 3 自己紹介
    - 4 令和7年度青森市子ども会議の活動について
    - 5 市長から激励の言葉
    - 6 写真撮影
    - 7 閉会
  - (3) 浪岡子どもの祭典に向けて

### 5 開催概要

市長へ今年度の活動計画を発表する第1回会議を開催しました。リハーサルをして本番に備え、市長報告の様子はインスタライブで配信しました。

#### 開会

司会の開会のあいさつにより、第1回青森市子ども会議が始まりました。堂々とした大きな声で進行を務めました。

#### 市長あいさつ

子ども会議委員の皆さん、こんにちは。

今年度になって初めての子ども会議です。皆さんにお会いできたことを大変嬉しく思っています。新たな委員の皆さんも、これまで参加されていた委員の皆さんも、それぞれお互いの意見を大事にしながら楽しく話し合っ、皆さんらしい子ども会議を一体となって作り上げていくことを期待しています。

今年度皆さんがどのように活動をしていくのか、発表をとても楽しみにしています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### 自己紹介

今年度一緒に活動していく委員が、青森市の好きなおとろやこれから子ども会議でやりたいことなど一言添えて自己紹介しました。



## 令和7年度青森市子ども会議の活動について

今年度の活動予定について、市長に向けて代表委員6名による発表がありました。

### <発表の概要>

令和7年度の青森市子ども会議は、小学生13名・中学生10名・高校生6名の委員29名と、サポーター3名の合計32名のメンバーでスタートしました。

「笑顔あふれる青森市」のテーマのもと、今年度は「観光・まちづくり」について取り組むグループと「子どもの権利」について取り組むグループの2つに分かれて活動を進めていく予定です。テーマは、青森市民だけでなく観光に来た人たちにも青森市を誇りに思い、楽しんでもらい、みんなが笑顔になってほしいという思いから決めました。

1つ目の観光・まちづくりについて取り組むグループでは、子ども会議公式インスタグラムなどで、外国の方へ青森市をより知ってもらうための取り組みや、青森市の特産物をPRするための取り組みについて考えていきたいと思います。他に



も、雪の多い青森市をより良くするため、冬でも利用しやすい交通についての取り組みや、青森駅周辺の活性化のため、子ども・若者が利用しやすい街にしていけるような取り組みについて考えていきたいと思います。さらに、他都市ともオンライン交流を行い、子ども会議の新たな活動のヒントにつなげていきたいと思います。

2つ目の子どもの権利について取り組むグループでは、子どもの様々な声を身近な私たち子ども会議委員へ届けられるような仕組みづくりや、子どもの権利を幅広く伝えるため、子どもの権利相談センターの紹介や、青森市営バスを使用して子どもの権利をPRするための取り組みについて考えていきたいと思います。また、浪岡の子どもの祭典や青森ねぶた祭りなどのイベントで子どもの権利をPRすることで、より子どもの権利を知ってもらえるような活動をしていきたいと思います。

全体の活動としては、青森市子どもの権利の日である11月20日にちなみ、一大イベントである青森市子ども会議フォーラムを開催し、子どもの視点から青森市へ意見を表明し、市政に参加をするほか、3月には1年間の活動を市長に報告する活動報告会を行います。

今年の子どもの会議の抱負は、「子どもの権利と青森市の魅力を大切にして、笑顔あふれる青森市にしよう！」です。学校も学年も様々ですが、新しいメンバーと一緒に協力しながらがんばりますので、よろしくお願いします。

## 市長から激励の言葉

活動の予定についてご報告をいただきまして、誠にありがとうございました。

皆さんは、自分たちの手で青森市のいろんな魅力を見つけたり、自分たちが行動を起こすことによっていろんなことを作っていくことができると思います。青森市の魅力を掘り下げて調べることができるので、青森市の良さを本当によくわかるようになると思います。そして、ほかの地域の人たちに青森市っていいでしょうと誇らしく思う気持ちも持つことができると思います。それを一般的にシビックプライドと言いますが、私も市政の中で市民の皆さん1人1人がシビックプライドを持ってもらえるようにと思っているので、皆さんの「笑顔あふれる青森市」というテーマは、それらを象徴するようなテーマだと思っています。



この会議は、小学生、中学生、高校生がみんな一緒になって共同作業ができるということが1番の魅力だと思います。せっかくの機会ですので、楽しく活動してほしいと思っています。

皆さんの声をしっかり私も受け止めて、笑顔あふれる青森市を作っていきたいと思っていますので、これからも頑張ってください。今日はありがとうございました。

## 写真撮影・閉会

最後にみんなで市長と一緒に写真撮影をし、閉会となりました。



## 浪岡子どもの祭典に向けて

再来週に迫った子どもの祭典に向けて、最後の準備をしました。まず、前回決めた担当ブースごとに分かれて、当日やることの最終確認を行いました。確認が終わったグループから3つの模造紙の作成に取り掛かりました。前々回の続きのペン書き・色塗りや今年度の活動についてなどを書いて完成となりました。



## 令和7年度 青森市子ども会議 in 第40回子どもの祭典

- 1 日 時 令和7年7月6日（日）7時25分～15時10分
- 2 場 所 浪岡総合公園
- 3 出席者 子ども会議委員17名、事務局4名
- 4 活動内容 子どもの権利等に関する出張普及啓発活動

### 5 開催概要

昨年度に引き続き、「子どもの祭典」にブースを出展し、ゲームを通じた「子どもの権利等に関する出張普及啓発活動」を行いました。



<今年のブース内容>

- ① スタンプラリー
- ② スノードーム・キーホルダーづくり
- ③ 的あてクイズ

### 事前準備

8時頃に会場の浪岡総合公園に到着し、ブース設営を行いました。テントの設営、子どもの権利や子ども会議をPRする掲示物の貼り付け、テーブルやイスの運搬・配置など、みんなで協力しながら準備をしました。あわせて、各ブースの担当や役割、休憩時間の確認も行いました。

### 本番（ブースの運営）

<スタンプラリー>

子ども会議運営の各ブースでゲームなどをしてスタンプを集めてきてくださいと説明をして、子ども会議委員が作成したスタンプラリー用紙を渡しました。スタンプを4個集めた人には缶バッジ・シャープペンシル・定規の中から好きなものを1つ、2個～3個集めた人には子ども会議や子どもの権利相談センターのキャラクターシール、1個の人には飴かティッシュを渡しました。

また、今年度の活動に結び付けられるような「青森市のオススメ観光地」「子どもの権利の認知度」などのアンケートを実施し、アンケートに答えてくれた人にはスタンプラリーのスタンプを1個もらえるようにしました。アンケートには128人もの方が回答してくれました。今後の活動に生かしていきたいと思います。



### <スノードーム・キーホルダーづくり>

昨年度も好評だったスノードームづくりに加え、今回はキーホルダーづくりも行いました。まず、どちらを作りたいか決めてもらい、あらかじめ用意した容器とけんりはかせなどのキャラクターやグリッター、シールなどの飾りを渡し、自分だけのオリジナルスノードームやキーホルダーを作ってもらいました。

男女問わず参加してくれて、特に小さい子に人気があり、準備していた約150個の容器が無くなるほどの大盛況でした。



### <的あてクイズ>

子ども会議委員が考えた子どもの権利などに関する5問のクイズの正解だと思う○×の的を狙って、当たった回数や的の種類に応じてポイントをゲットできるルールで行いました。的はトイレットペーパーの芯で作り、輪ゴムを弾として割りばし鉄砲で的をねらいます。午前中の来場者が非常に多く長い列になってしまったので、クイズの数を3問に減らしたり、2人同時に行うなど調整をしながら行いました。全問正解的に当てたらトートバック・ミニタオルの中から好きなものを1つ、そのほかは参加賞として飴かティッシュを渡しました。



### 撤去作業

祭典終了の14時頃にブースの撤収を行いました。テーブルやイスを片付け、掲示物をはがし、テントをたたみました。最後までみんなで協力し片付けを行いました。



子ども会議委員はブースの運営を行いつつ交代で休憩に入り、他のブースや出し物も楽しむなど、子どもの祭典を満喫しました。天候は朝に小雨が降りましたが、その後は晴れてとても暑い中でしたが、祭典の開催時間いっぱい活動することができました。無事に子どもの権利等に関する出張普及啓発活動を終え、参加者にも楽しく子どもの権利のことなどを知ってもらうことができたと思います。

## 令和7年度 第2回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年7月22日（火）10時00分～15時00分
- 2 場 所 青森市福祉増進センター 2階研修室、3階中会議室
- 3 出席者 子ども会議委員12名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 青森ねぶた祭に向けて  
(2) グループ活動

### 5 開催概要

来週から開催される青森ねぶた祭に向けた準備とグループ活動を行いました。グループ活動では新たに、子ども会議フォーラムに向けてファシリテーターの先生にサポートしていただくことになりました。

#### 青森ねぶた祭に向けて

ねぶた祭で行う子どもの権利普及啓発活動のため、配布物品の準備を行いました。まず、ねぶたの花笠をマスコットにした「花笠マスコット」の制作について、青森市社会福祉協議会のボランティア活動に参加し、ボランティアアドバイザーの方に作り方を教えてもらいました。お花紙を折ってお花を作り、花笠の土台となる型をボンドでくっつけます。タコ糸に短冊と鈴を通し、針で土台・タコ糸・折り紙で作った鶴を繋げ、お花をつけて完成です。花笠マスコットの制作は初めての委員ばかりで、とても細かく慣れない作業に苦戦することもありましたが、ボランティアアドバイザーの方に丁寧に教えていただき、作成後には「とても綺麗で上手にできています」と褒めていただきとても嬉しかったです。

次に、花笠マスコットの短冊に書く子どもの権利の標語を考えたり、花笠マスコットと一緒に配布する子ども会議と子どもの権利相談センターを紹介するミニ紙やチラシのデザインを考えたり、花笠に付ける鶴を手分けして折ったりしました。



## グループ活動

まず、子ども会議フォーラムに向けた活動について話し合い等をサポートし、協力していただくファシリテーターの先生と顔合せを行いました。事務局からの説明のあと、自己紹介をしていただきました。

顔合せのあとは早速、それぞれのグループに分かれ活動しました。前回までの話し合いを振り返り、将来、より良い青森市にするため調査研究をする8月の活動計画を考えました。



### ○前回までの話し合い内容とスケジュール (7/22 時点)

	観光・まちづくりグループ	子どもの権利グループ
将来、より良い青森市にするために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人などの観光客に青森市の魅力を発信</li> <li>・青森駅周辺をより利用しやすくするためのまちづくり</li> <li>・特産物をPRする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての子どもに子どもの権利を理解してもらう</li> <li>・大人も子どもの権利を知る機会を増やす</li> </ul>
調査研究活動 1日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新町の無料駐車場・駐輪場調査</li> <li>・新青森駅もしくは青森駅のおみやげ調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利相談センター紹介の動画作り</li> <li>・意見BOX、新聞作り</li> </ul>
調査研究活動 2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光マップ作成のため市内の名所をバスツアー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バスで子どもの権利のPR方法を考える</li> </ul>
調査研究活動 3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産物を調理、試食しPR方法を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利に関する講義を受ける</li> <li>・子どもの権利に関するゲーム作り</li> </ul>

## 令和7年度 第3回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年7月30日（水）9時30分～15時00分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター 2階大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員10名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) グループ活動  
(2) 青森ねぶた祭に向けて

### 5 開催概要

グループ活動と、青森ねぶた祭での子どもの権利普及啓発活動に向けて、花笠マスコット制作の続きと配布セットを袋に詰める作業を行いました。

#### グループ活動

それぞれのグループに分かれ、グループ名と前回の話し合いで決めた8月の活動計画の詳細を考えました。

まずは、グループ名について考えました。観光・まちづくりグループでは、「Let's go!」を使いたいという案は出ていたものの、その他の案が無かったので考える時間を作り、その後みんなで意見を出し合いました。その意見の中から委員が作ってくれた投票用紙で投票し、ポイント制で「Town make」という、難しすぎず聞き馴染みのある言葉が選ばれました。そこから再度決定に向けて話し合いをし、前回出ていた案の「Let's go!」を合わせて、「Let's go! Town make」に決まりました。

子どもの権利グループでは、前回出た案である「青森ライト」について、ライトには「Right(権利)」と「Light(光、明るさ)」という2つの意味があることを再度説明し、青森ライトだけでは意味がわかりにくい今年度のグループの思いをサブタイトルで付け、「青森ライト ～権利で青森の明るい未来～」に決まりました。

活動計画の詳細は、将来、より良い青森市にするためにどのような観点で調査をするか、どのような流れで作成していくかなどを話し合いました。



## 青森ねぶた祭に向けて

後半は、配布セットの封詰めを行いました。ねぶた祭では、前回考えた子ども会議と子どもの権利相談センターの紹介チラシと子どもの権利相談センターの携帯カード、ティッシュ、鈴を袋に入れて配布します。みんなで話し合いながら役割を決め、手分けして行ったため約800個を1時間半で用意することができました。

次に花笠マスコットの完成に向けて、前回、青森市社会福祉協議会のボランティアアドバイザーに教えてもらった作り方を確認しながら、また、前回いなかった委員には作り方を教えながら作業しました。花笠マスコットの作業も役割を決め作業し、最後に子ども会議や子どもの権利相談センターの紹介が記載されているミニ紙を入れて袋詰めをして、約100個を完成させることができました。



## 令和7年度 青森市子ども会議 in 青森ねぶた祭

- 1 日 時 令和7年8月2日（土）18時20分～20時40分
- 2 集合場所 青森市役所 駅前庁舎5階 インナーパーク
- 3 出席者 子ども会議委員23名、子どもサポーター1名、事務局4名
- 4 活動内容 青森ねぶた祭における子どもの権利普及啓発活動
- 5 開催概要

昨年度に引き続き、ねぶた祭1日目に参加し、子どもの権利普及啓発活動を行いました。

### 集合

自分たちでデザインしたTシャツを着用し、鈴をつけ、配布物品や手作りのうちわ、提灯を持ち、市役所ねぶたの待機場所へと向かいました。今年度の配布物品は、子どもの権利と子ども会議のチラシ・子どもの権利相談センターの携帯カード・ポケットティッシュ・ねぶたの鈴のセット（約800個）と、花笠マスコット（約100個）です。

### 子どもの権利普及啓発活動（青森ねぶた祭本番）

ねぶた祭は2点スタート方式で、市役所ねぶたは新町柳町交差点から12番目の出発でした。集合場所であるアウガからねぶたの待機場所まで歩いて向かいます。19時に花火があがり、ねぶた祭が始まりました。

啓発物品を観覧客に配りながら「ラッセラー」の掛け声とともに子どもの権利の普及啓発活動を行いました。運行の流れに遅れないように配布することはとても大変でしたが、観覧客が喜んで受け取ってくれ、啓発物品は出発して10分ほどですぐになくなってしまいました。その後もみんなうちわを振って子どもの権利の普及啓発を行い、ねぶた祭を楽しみました。

最後に、集合写真を撮って終了しました。



## 令和7年度 第4回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年8月6日（水）9時30分～15時30分
- 2 場 所 青森市役所 駅前庁舎4階 会議室
- 3 出席者 子ども会議委員11名、子どもサポーター1名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 グループ活動

### 5 開催概要

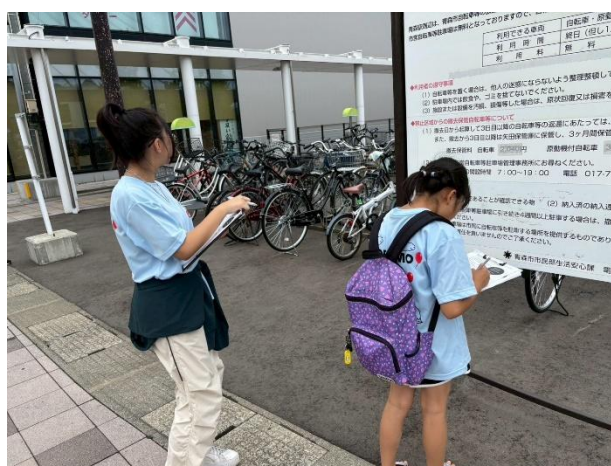
前回までに決めたスケジュールを基に、グループ毎に調査研究活動を開始しました。

#### グループ活動

<Let's go! Town make>

午前：青森駅周辺調査（駐車場・駐輪場とおみやげ屋） 午後：新青森駅調査（おみやげ屋）

午前中は青森駅周辺の駐車場及び駐輪場とおみやげ屋について調査しました。まず、駐車場及び駐輪場について、駅東口の駐車場と駐輪場、駅西口の駐車場と駐輪場、あすなる橋下の駐輪場の合計5か所を見に行きました。事前に考えていた調査項目「何台停めることができるか・金額・安全性・時間制限・利用のしやすさ」に加え、そのほか気が付いたところなどをみんなで話し合い、調査用紙に記入をしながら調査することができました。



おみやげ屋について、&LOVINAの1階にある「KISUKE」とLOVINAの1階にある「ふーどぎゃらりーあおのや」、駅前庁舎の近くにある「活彩市場ぴあ」を見に行きました。調査項目については、「外国人観光客の多さ・マナー・品揃え・値段・場所・営業時間」などについてです。また、特産物のPRについてどのようなものをPRしたいか、PRの方法についても考えながら見て歩きました。「KISUKE」はお菓子に加え、工芸品などの食器類や雑貨、ねぶたに関する商品などが置かれていました。おしゃれで、青森市民が見てもとても楽しく見ることができるようなお店でした。「ふーどぎゃらりーあおのや」は、お菓子が主に売られていて、冷蔵の商品もあり、どの商品をPRしたいかをとても悩みました。「活彩市場ぴあ」はお菓子などに加え、乾物やりんごなどの果物などもありました。時期が短くなかなか出回らないりんごなども売られていました。店員さんも優しく声をかけてくださり、青森市をより良くするために調査研究活動をしていますと伝えたところ、頑張っってねと声をかけてくださいました。みんなのお店も見入っていました。

ねぶたが行われている期間ということもあり、キャリーケースを引いた人がたくさんいて、調査の途中で観光客にインタビューをする委員もいました。直接、観光客の方の声を聴くことができる、

とてもいい経験になりました。

少し時間が余ったので新町を歩くことにしました。道に多くの自転車が停まっている状況を確認することができたり、駐輪禁止の文字や看板を実際に見ることができました。おみやげ屋調査については、複合商業施設 THREE の1階にある「日本百貨店あおもり」を見ました。青森のおみやげのほか、日本としてのおみやげもあり、外国人観光客の方におすすめしたいなと感じました。



午後は、青森駅と新青森駅を比較したいという委員からの意見があったため、新青森駅に行っておみやげ屋の調査と特産物のPRについて考えました。駅の中は、ねぶた期間ということもあり、たくさんの人で賑わっていました。新青森駅1階の「あおもり旬味館」を見ました。とても広く、おみやげ屋に加え、海鮮や郷土料理、出来たてのアップルパイが食べられる飲食店などもありました。観光に来た人はもちろん、青森市民も十分に青森を堪能できる場所でした。ここでも、たくさんメモをとりながら調査することができました。

アウガに戻り、今日の活動の振り返りを行いました。最後に、特産物のPRについて話し合いをしました。みんなで意見を出し合い、話し合いをした結果、青森の食材などを使い、子ども会議弁当を作り、子ども会議の公式 Instagram 等でPRすることになりました。

<青森ライト ～権利で青森の明るい未来へ～>

午前：子どもの権利相談センターの紹介動画作り

子どもの権利相談センターの紹介動画の内容について話し合いをしました。前回までの話し合いで短い動画を複数作成することになっていたのですが、まず、どのような内容の動画をいくつ作るのかについて、委員ひとりひとり用紙に記入した後、発表しました。その結果、「子どもの権利相談センターの概要を紹介」、「相談対応者を紹介」、「相談状況イメージを紹介」の3種類を作ることになりました。動画は、画面内に情報量を多く入れられるため、横長で撮影することとしました。最後に各自、記載例を参考にしながらシナリオを作成しました。8月21日に子どもの権利擁護委員が子どもの権利センターに集まるため、その日に訪問して撮影を行うことにしました。動画撮影に向けた準備が着々と進んできました。

午後は、「Let's go! Town make」の活動に同行し一緒に調査活動を行いました。帰ってきてから、今日の活動を振り返ったり、次回までの宿題である、子ども会議フォーラムのチラシデザインなどを考え、今日の活動を終了しました。



## 令和7年度 第5回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年8月18日（月）9時30分～15時30分
- 2 場 所 青森市役所 本庁舎1階 ロビー
- 3 出席者 子ども会議委員9名、子どもサポーター3名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) モヤヒルズの見学  
(2) 三内丸山遺跡の見学

### 5 開催概要

市営バスに乘車し、午前中はモヤヒルズ、午後は三内丸山遺跡の見学に行きました。各グループで調査する内容を確認し、活動を開始しました。

#### モヤヒルズの見学

ヒルズクラブ前からスタートし、ケビンハウスやキャンプ場を通り、山側の遊歩道を歩きました。標高が高いため涼しく、自然に囲まれた道は、とても気持ち良く歩くことができました。少し木陰で休憩した後、リフトの下を通り、ヒルズサンダーに気を付けながら、テニスコートの方へ行き、スタート地点に戻りました。途中、市内を一望できる場所があったり、そば畑やひまわり・コスモス畑など普段見られないような景色を見ることができました。



次に、ヒルズクラブの中を見学しました。プールやキッズルーム、モヤヒルズ産スイカなどの特産物が売られているところ、テラスには、わなげやストラックアウトなどの遊べる場所がありました。モヤヒルズは冬のスキー場のイメージが強いですが、夏のモヤヒルズも色々な魅力があり、新しい発見でした。

#### 三内丸山遺跡の見学

まず、三内丸山遺跡センター内にある縄文食材を使った料理を楽しむことができる「れすとらん五千年の星」で昼食をとりました。そして、外にある遺跡とさんまるミュージアムを見学しました。さんまるミュージアムでは、縄文遺跡群を映像で見ることができたり、タブレットなどを使った解説は多言語に対応していました。ミュージアムショップやおみやげ屋を見学し、最後まで縄文の世界を楽しむことができました。



前回の活動も含めて、実際に歩きながら調査することで、様々な発見をすることができ、2グループとも調査用紙にたくさん書き込みながら活動を行うことができました。

最後に、本庁舎に戻り、次回の活動の確認などを行い、活動を終了しました。

## 令和7年度 第6回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年8月23日（土）9時30分～15時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 集会室、調理実習室
- 3 出席者 子ども会議委員9名、子どもサポーター1名、ファシリテーター1名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) 子ども会議フォーラムに向けて  
(2) 子どもの権利に関する講義  
(3) グループ活動

### 5 開催概要

最初に全員で子ども会議フォーラムに向けての話し合いを行い、子どもの権利に関する講義を受け、その後グループに分かれて活動を行いました。

#### 子ども会議フォーラムに向けて

子ども会議フォーラムに向けて、サブタイトル決めとチラシのデザイン決めを行いました。どちらも、事前にみんなで出し合った候補の中から選びました。

サブタイトル決めでは、どの候補が良いかひとりひとり意見を述べました。そのうえで、いままでのサブタイトルになかったようなもの、インパクトがあり、前向きであるという意見から、“子ども<sup>けんり</sup>をてらそう！Rightで明るいまちへ”に決定しました。

チラシのデザイン決めについては、どの候補が良いかひとりひとり選びました。次回以降、選んだ人気候補を実際画面で見ながら、最終決定していきたいと思います。

#### 子どもの権利に関する講義

子どもの権利擁護委員の沼田徹先生にお越しいただき、子どもの権利に関する講義をしていただきました。「権利とは？」、「人権とは？」、「個人の尊厳について」、「人権は無制限ではないこと」などについて、具体例を用いてわかりやすく解説していただきました。講義中、沼田先生の問いに対して、子ども会議委員も自分たちの意見をたくさん発表しながら、参加していました。



講義を受けた委員からは、「権利や人権のことを楽しく学ぶことができた、また講義を受けたい」「去年と違った人権侵害の例を聴くことができてよかった」「自分の気持ちや意見を発表できてスッキリした」「自分にとって一番大切な考えだと思った」という感想が挙がりました。

## グループ活動

<Let's go! Town make>

青森の食材などを使って、「子ども会議弁当」を作りました。使う食材やおかずについては、事前にみんなで出し合った案の中から、人気なものなどを選びました。作ったのは、「源たれからあげ」、「貝焼き味噌」、「しょうが味噌おでん」、「嶽きみごはん」、「りんごドレッシングサラダ」の計5品です。

役割分担を決めて調理を開始しました。みんな積極的に作業をしていて、子どもサポーターや事務局も手伝いながら、暑い中でしたが協力して作ることができました。5品調理し終え、お弁当におかずとごはんを詰めました。最後に、子ども会議や子どもの権利相談センターのマスコットキャラクターの爪楊枝に枝豆をさして盛りつけ、完成となりました。

完成したお弁当を「青森ライト」のメンバーも含めてみんなで食べ、味の感想などを用紙に書きました。みんなからは、美味しい！という声があがっていました。食べ終わったあとは、子ども会議の公式 Instagram の投稿案を考えました。



<青森ライト ～権利で青森の明るい未来へ～>

子どもの権利相談センターの紹介動画作成のため、8月21日に子どもの権利相談センターに集まり、子どもの権利擁護委員や調査相談専門員にインタビューなどをして撮影を行っていました。

今日は、撮影に参加できなかった委員の分の撮影を行いました。8月21日に撮影したものと今日撮影したものを、編集で違和感がないようにつなげることとなりますが、カメラの角度や顔の向きなど、どうすればその場にいたように見えるか、みんなで色々考えたり、カンペを顔の向きに合わせて別々に用意したり工夫して撮影しました。

撮影が終わった後は、パソコンでの編集作業にチャレンジしました。編集が得意な委員もいたので、使い方を教わりながら、難しいながらも字幕の入力に挑戦しました。

編集はすごく時間がかかる作業で、完成まではまだまだですが、みんなで意見を出し合いながら、見た人が楽しめる動画にしたいと思います。完成が楽しみです。



## 令和7年度 第7回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年9月6日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員8名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 子ども会議フォーラムに向けて  
(2) グループ活動

### 5 開催概要

最初に全員で子ども会議フォーラムのチラシのデザインについて話し合った後に、グループに分かれて活動を行いました。

#### 子ども会議フォーラムに向けて

子ども会議フォーラムに向けて、チラシのデザイン決めと意見表明をする内容を考えました。

チラシのデザイン決めでは、前回選んだ人気候補の中から多数決をとり、1つのデザインを選びました。そのデザインを見ながら、ブラッシュアップするために話し合いを行いました。「前回決まったサブタイトルをイメージした色を使いたい」、「目立たせるために色を変えたい」、「見やすくするためにイラストをこう変えた方が良いと思う」など、様々な意見が出ました。これらの意見をチラシに反映させたいと、最終決定に向けて調整していきたいと思います。

次に、グループに分かれて意見表明する内容について考えました。ファシリテーターの先生に進行していただき、ワークシートを使ってこれまでの活動を振り返りながら、自分の考えを整理することから始めました。たっぷり時間を使ってワークシートに書き出した後は、「調査活動を通してわかったこと(課題となっていることなど)」の項目について発表し合いました。発表した内容は1つずつ付せんには書き、模造紙に貼りました。出た意見を同じ内容ごとにまとめ、それぞれにタイトルをつけ、優先して取り組んだほうが良いと考えるものを話し合い、優先順位まで決めることができました。これからさらに話し合い、意見表明する内容を詳しく考えていきたいと思います。



## グループ活動

<Let's go! Town make>

観光マップの作成について活動をしました。まず、これまでの話し合い内容について振り返りを行いました。そのうえで、「マップに載せる場所」「どういう項目を載せるか」について、考える時間を作った後、ひとりひとり発表しました。話し合いをして、載せる場所を決めることができました。項目についても優先順位を決めたので、実際にマップを作成しながら調整していきたいと思います。他にも、「マップ上に項目ごとのマークを付けたい」、「調査活動で学んだことをおすすめポイントで載せたい」「多言語はできる部分で挑戦してみたい」など意見が出たので、次回以降、かたちにしながらか完成に近づけていけるように活動していきたいと思います。

<青森ライト ～権利で青森の明るい未来へ～>

市営バスで子どもの権利をPRするために、バスのどこに何を貼ってPRするか、みんなで意見を出し合いました。バスの車内には、昨年度の子ども会議で作成した「子どもの可能性新聞」を貼りたい、ねぶた祭りの子どもの権利普及活動で配った「花笠マスコット」をぶら下げたいという意見が出ました。

また、バスの外側には「子ども会議って知ってる？」という文字を載せたい、「けんりはかせ」や、子どもの権利相談センターのマスコットキャラクター「ほたまる」などのイラストを載せたいという意見が出ました。今後、もっとアイデアを出し合って決めていきたいと思います。

次に、前回、撮影と少し編集作業をした子どもの権利相談センターの紹介動画を、みんなで見て確認しました。別々に撮影した動画があたかも同時に撮影しているようにうまくつながっていて、とても興味深かったです。見た人の興味を引けるよう、これからもっと工夫して編集していきたいです。



## 令和7年度 第8回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年9月28日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員10名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 市営バスの音声案内について  
(2) グループ活動  
(3) 子ども会議フォーラムに向けて

### 5 開催概要

市営バスの音声案内の一言コメントを決めた後に、グループに分かれて活動を行いました。

#### 市営バスの音声案内について

青森市営バス100周年の取り組みの1つとして行われる、子ども会議委員による青森市営バス音声案内の録音に向けて、指定された停留所の一言コメントを考えました。事前に宿題としてみんなで案を出し合い、その内容を確認しながら分担して作業を進めました。自分たちが考えたコメントが実際にバスの中で流れることを想像すると緊張する、といった声も聞かれましたが、計14か所分のコメントを考えることができました。今後の活動で録音をして、来年度、実際に市内を走るバスで案内が流れる予定です。

#### グループ活動

<Let's go! Town make>

子ども会議公式Instagramに今年度最初の投稿をするため、青森市子ども会議を紹介する投稿と、特産物のPRをするために作った子ども会議弁当の投稿内容を考えました。

青森市子ども会議を紹介する投稿については、今年度新しく入った委員の感想を加えたり、今年度の活動グループを紹介する画像を作成したりしました。

子ども会議弁当の投稿については、青森の特産物をPRするために、使用した食材や作ったおかずを紹介する内容を分担して考えました。また、投稿を見やすくするために、写真にコメントやイラストを加える案も出ました。次回以降、作成した画像等を確認して投稿していきたいと思いません。

<青森ライト ～権利で青森の明るい未来へ～>

市営バスで子どもの権利をPRするため、車内と車外にどのようなものを貼ればよいか、前回話し合ったときの委員からの意見を基に、さらに具体的内容やデザインについて話し合いました。

前回出された委員のアイデアを基に、事務局が車内に貼る掲示物の案と車外に貼るもののデザイン案を用意してくれたので、それを見ながら意見を出し合いました。

車外に貼るものについては、いくつか案があった中から、バスの後ろと左右に貼るものを決めました。残ったデザイン案も捨てがたいので、車内にも貼りたいということになりました。

また、編集集中の子ども権利相談センターの紹介動画についても、こうしてほしいというアイデアが出たので、これからの編集作業に生かしたいと思います。

### 子ども会議フォーラムに向けて

前回に引き続き、ファシリテーターの先生に進行していただき、前回までの活動を振り返ってから、意見表明の内容を決定するための話し合いをしました。話し合いはグループごとに台紙を使って進めました。台紙には、「課題となっていること」「解決したい理由」

「具体的な取り組みについて」「提案した内容に取り組みことで起こる変化」「20年後の青森市」という項目があり、それぞれについてひとりひとりが付せん意見を書いて発表しながら台紙を埋めていきました。意見を出し合った後は、台紙を見ながらわからないところをグループ内で確認し合いました。

次に、各グループで情報交換を行うために、メンバー内で「説明者」と「記者」に分かれました。説明者は自分のグループに残り、記者は他のグループに行き質問をしたり、新しいアイデアを話し合い、その内容も台紙に書き込みました。

最後に、各グループが話し合った意見表明の内容を台紙を見せ合いながら3つずつ発表し、今回の活動を終了しました。ファシリテーターの先生の進行のおかげでみんなの意見をうまく引き出してもらうことができたので、意見表明する内容を決めることができました。次回以降は、当日の発表に向けてスライドや原稿の作成について考えていきたいと思います。



## 令和7年度 第9回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年10月5日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員9名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 青森市民図書館の展示タイトルについて  
(2) 子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成  
(3) 子ども会議フォーラムに向けて

### 5 開催概要

最初に全員で展示タイトルについて話し合った後に、パネル展の展示物を作成し、その後グループに分かれて子ども会議フォーラムに向けた活動を行いました。

#### 青森市民図書館の展示タイトルについて

青森市民図書館で11月5日(水)～11月27日(木)までの日程で開催予定の、子どもの権利に関する展示のタイトル決めを行いました。事前に宿題としてみんなでタイトルの案を考えてきたので、どの案が良いかひとりひとり意見を述べた結果、「それ、ほんとに“こどもだから”でいいの？」という案が人気でした。さらに、子どもの権利に関する展示であることをわかりやすくするために、タイトルの後ろに「～みんなの子ども権利～」を付け加えればいいのではという意見が出ました。その結果、展示タイトルは「それ、ほんとに“こどもだから”でいいの？～みんなの子ども権利～」に決定しました。

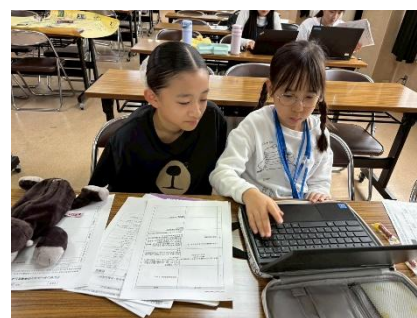
#### 子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成



青森市役所の駅前庁舎1階にある駅前スクエアで、11月4日(火)～11月7日(金)までの日程で開催予定の、子どもの権利に関するパネル展の準備を行いました。パネル展では、子ども会議のことや子どもの権利相談センターについて紹介する模造紙などを展示する予定なので、その模造紙の作成をみんなで分担し、下書きやレイアウトを決めました。次回は、完成に向けて頑張ってお作業していきたいと思います。

#### 子ども会議フォーラムに向けて

子ども会議フォーラムに向けて、グループごとに発表スライドや原稿の案を作成しました。ファシリテーターの先生にアドバイスをいただきながら、「活動を始めたきっかけ」「調査研究活動の内容」「意見表明」「まとめ」について役割分担をしてみんなで作業を進めました。次回、作成した発表スライドや原稿をまとめたものを確認し、完成させたいと思います。



## 令和7年度 第10回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年10月26日(日)9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員13名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) グループ活動  
(2) 子ども会議フォーラムに向けて
- 5 開催概要

グループ活動を行った後に、子ども会議フォーラムに向けた活動を行いました。

### グループ活動

<Let's go! Town make>

子ども会議公式 Instagram に投稿する「子ども会議弁当」の内容について、最終チェックを行いました。これまでに決めた画像や文章を確認し、画像の色味の調整や文字に誤りがないかを確認しました。当初は1回の投稿にまとめる予定でしたが、2回に分けて投稿することにしました。1回目の投稿では、お弁当を作った理由とお弁当の紹介を掲載します。2回目の投稿では、お弁当に使用した特産物の紹介と、実際に食べてみた感想を載せることにしました。

<青森ライト ～権利で青森の明るい未来へ～>

今年度の活動で、子ども会議委員が子どもたちの悩みなどを聞き、それに答えるため意見 BOX を作りたいてしていました。意見 BOX に入れてもらった悩みなどについて、どのように返事を返すのがよいか考えましたが、子ども会議のホームページに載せるのがよいというアイデアが出ました。

意見 BOX には、子どもたちの悩みなどを入れてもらうほか、「子どもの権利を知っていますか？」など、子どもの権利の認知度についても調べたいので、記入用紙は2種類用意することとし、まずはそれぞれで BOX のデザインと記入用紙の内容を考えました。今後、話し合っ決めていきたいと思ひます。

### 子ども会議フォーラムに向けて

前回に引き続き、11月16日(日)に予定している「青森市子ども会議フォーラム2025」に向けた準備を行いました。

はじめに、発表原稿の確認と発表の役割決めを行いました。その後は、発表スライドの最終確認を行うグループ、発表に加える予定の「20年前の青森市」について調べるグループ、子ども会議の公式 Instagram に投稿予定のフォーラムまでのカウントダウン用紙を作成するグループ、子どもの権利に関する展示物の模造紙を作成するグループの4グループに分かれて作業を進めました。ファシリテーターの先生や事務局のサポートのもと、どのグループもほぼ完成させることができました。



次回は、司会や感想を言う人を決めたり、発表のリハーサルを行うなど、フォーラムに向けて最終調整を行いたいと思ひます。

## 令和7年度 第11回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年11月9日（日）9時30分～15時00分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター1階 研修室・2階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員11名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 市営バスの音声案内録音  
(2) 子ども会議フォーラムに向けて

### 5 開催概要

市営バスの音声案内録音を行った後に、来週に迫った子ども会議フォーラムに向けて活動を行いました。

#### 市営バスの音声案内録音

初めに、交通部管理課の職員から、令和8年3月に100周年を迎える青森市営バスの概要について説明をしていただきました。「市営バスの歴史」、「運行実績」、「利用者の割合」「近年導入したサービス」などについて、写真付きの資料を用いてわかりやすく解説していただきました。



次に、100周年を迎えるに当たり、次の世代を担う子ども会議委員にもっとバスに親しんでいただく企画した音声案内の取組について説明を受けた後、2班に分かれて録音を行いました。録音内容は、バスの停留所名のみが26か所、停留所名に加えて事前に考えた一言コメントを添えたものが14か所の、計40か所分です。

録音中は静かにする必要があり、終始緊張感が漂っていましたが、録音を終えた後は笑顔も見られました。最後に記念写真を撮って、音声案内の録音を無事に終了しました。貴重な機会をくださった交通部管理課の職員の方々に感謝です。録音した音声案内は、令和8年4月1日から令和9年3月31日の1年間、バスの車内で放送される予定です。



## 子ども会議フォーラムに向けて

子ども会議の公式 Instagram に投稿する、子ども会議フォーラムまでのカウントダウン動画の撮影を行いました。みんなで楽しみながら動画撮影をすることができました。子ども会議フォーラムは11月16日（日）なので、5日前の11月11日（火）から当日まで、子ども会議公式 Instagram のストーリーズに載せていきます。

次に、子ども会議フォーラム当日の司会者を決めた後、実際の動きを確認しながら通しのリハーサルを行いました。読みにくい漢字の読みを確認したり、フォーラム当日に参加できない人にはスライド操作や発表の補助をしてもらい、協力しながらリハーサルを進めることができました。

最後に、来場者へ配布する資料や物品を、多くの方に発表を聴いていただきたいという思いを込めて作業を進め、準備を終えました。



来週はいよいよ子ども会議フォーラム本番を迎えます。

# 令和7年度 青森市子ども会議フォーラム 2025 FOR CHILDREN ～子どもをてらそう！Rightで明るいまちへ～

- 1 日 時 令和7年11月16日（日）8時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市議会議場、委員会室
- 3 出席者 子ども会議委員15名、ファシリテーター1名、事務局8名
- 4 次 第 (1) 開会  
(2) 市長あいさつ  
(3) 私たちからの意見表明  
(4) 市長総括  
(5) 閉会

## 5 開催概要

青森市では、「青森市子どもの権利条例」において、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。

青森市子ども会議では、子どもが意見を表明し市政に参加する機会として「青森市子ども会議フォーラム 2025 FOR CHILDREN ～子どもをてらそう！Rightで明るいまちへ～」を、市議会議場をお借りして開催しました。

### リハーサル

午前8時30分に委員会室に集まり、それぞれ自分の読むところを声に出して読みながら確認しました。そして、リハーサル開始時間までの間に、子ども会議公式Instagramに“開催当日”をお知らせするための動画の撮影を行いました。撮影を終えた後は議場に移動し、リハーサルを行いました。リハーサルでは、意見表明の際の立ち位置や動きなどを確認し、本番に備えました。



### 開会

司会を務める委員から、開会のあいさつと子ども会議についての説明がありました。



本日のイベントは、子どもにとって大切な権利の一つである「意見を表明し参加する権利」を主眼に置き、青森市子ども会議委員が企画・運営しています。

私たちが参加している青森市子ども会議は「青森市子どもの権利条例」に定められており、今年度は、小学生13名、中学生10名、高校生6名の合計29名の委員が、子ども会議サポーター3名からアドバイスをいただきながら「笑顔あふれる青森市」をテーマに活動しています。

本日は、ここ青森市議会議場において、「私たちからの意見表明」として、2グループから「20年後の青森市のすがた」について発表し、西市長をはじめ理事者のみなさまからご意見・ご感想をいただきます。

ご来場の皆さまには、私たちの発表を最後までお聞きいただけたらと思います。

## 市長あいさつ

市長から、昨年度の子ども会議フォーラムで出た意見を受け、市が取り組んだことなどについて説明がありました。



本市では、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」と定め、皆さんが意見を表明し、参加できる機会を提供しています。ここ青森市議会議場での開催は今回で8回目となります。

さて、昨年度の子ども会議フォーラムでは子ども会議委員の皆さんからいただいたご意見を基に、市が取り組んだことが実際にありますのでここでご紹介します。

「青森市観光大使や青森市にゆかりのスポーツ選手を多くの人に知ってもらうための取組を行ってほしい」というご意見をいただきましたが、青森市では、今年7月に駅前スクエアにおいて、青森市観光大使の紹介パネルを展示しました。また、9月には青森市出身や青森市にゆかりがあるスポーツ選手の一覧を青森市のホームページに掲載いたしました。

今年度は「笑顔あふれる青森市」をテーマに、皆さんが調査、研究を重ね描いた「20年後の青森市のすがた」について発表してもらおうと聞いています。

皆さんが青森市の魅力について気づき、考え、意見を表明してくれることが、私も大変うれしく、ワクワクしているところです。

子ども会議委員の皆さんには、ぜひ青森市を誇りに思い、シビックプライドを持って、その魅力を友達や家族、市外の方々にも伝えていってほしいと思っています。

皆さんの誇りと挑戦が、未来の青森市を創っていく原動力になります。青森市子ども会議委員の皆さんのこれからのご活躍に大いに期待して、私からの開会の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくをお願いします。

## 私たちからの意見表明 (Let's go! Town make)

### <20年前の青森市>

20年後の青森市について意見表明をするにあたり、20年前の青森市について青森駅、市営バス、雪、ごみについて調べてみたところ、青森市は少しずつ変わりながら、観光・まちづくりの全てで成長してきたことが分かりました。

### ○青森駅について

当時の青森駅の様子について写真を比べてみると、青森駅が大きく変わってきたことが分かります。20年前の青森駅はレトロな雰囲気味が、今の駅は新しい青森の未来を感じます。変わっていくことは少し寂しくもありますが、その中に青森市がより良いまちに成長していることを感じました。また、「青森駅周辺整備基本計画」が作られ、新幹線の開業に向けて駅周辺をきれいにした、観光施設を整えたりしていたことが分かりました。ねぶたをテーマにした施設ができたりした



ことで、青森らしさをより感じられるまちになっていると思いました。

#### ○市営バスについて

20年前には、県内で初めてノンステップバスが導入され、アイドリングストップバスも走り始めたようです。人にも環境にもやさしい交通になっていることが分かります。さらに、小学生以下の子どものバス料金を無料にする取組もこの頃から始まっていて、青森市が子どもや家族にやさしいまちづくりを進めていたことが分かりました。

#### ○雪について

20年前の青森市の降雪の深さは1953年からの観測史上5位の大雪で、2000年以降では1番多い年だということがわかりました。昨年度は豪雪という言葉がたくさん聞いた年でした。最近は短時間にたくさん降ることが多くなり、雪の降り方も少しずつ変わってきています。それでも、除雪体制の工夫などで、人々の暮らしを守る取り組みが続いていることを感じました。

#### ○ごみについて

現在の清掃工場は2015年に新しくなり、毎日24時間体制で焼却処理を行って、舗装資材等の資源となるスラグを生成し売却する仕組みや「破砕機」によって破砕処理を行って、資源となる鉄、アルミを回収し売却する仕組みなどで環境にやさしく、資源を無駄にしない仕組みが作られていることが分かりました。

ここから、私たちが考える「20年後の青森市」について調査・研究活動を通して話し合いを重ねてきた結果を発表します。

#### <活動をはじめたきっかけ>

将来より良い青森市にするためには、「観光客に青森市の魅力を伝え、観光客を増やすこと」「みんなが過ごしやすいまちづくりを進めること」が必要だと考え、観光とまちづくりの2つの視点を中心に活動してきました。



グループ名は、明るい印象の「Let's go!」と難しすぎず聞き馴染みのある「まち=Town」「つくる=make」を組み合わせ、「Let's go! Town make」としました。

私たちはこれまでに、「青森駅周辺の駐車場及び駐輪場調査と、おみやげ店の調査」、「市営バスに乗って、観光名所である「三内丸山遺跡」「リンクステーションヒルズ雲谷」を見学」、「青森市の特産物を使った子ども会議弁当を作成し公式インスタグラムで発信」などの調査・研究活動を行いました。

#### <調査・研究活動>

##### ○青森駅周辺の駐車場・駐輪場調査

青森駅東口、西口、あすなる橋下には、どこもたくさんの車や自転車を停める場所があることが分かりました。駐輪場は全て無料で、駐車場も最初の30分は無料でした。駅西口



は駅東口に比べ、人通りが少なく感じたので、監視カメラなどがあればより安全性が高まると感じました。あすなろ橋下の駐輪場は、自転車の駐輪台数が多く通路が狭くなってしまっていたのできれいに整備することでより利用しやすくなると感じました。東口にはレンタサイクルなどもあり、観光客も市民も使いやすくて便利だと感じました。新町は駐輪場が少なく、また、路上に停められている自転車が多かったり、駐輪禁止の表示が見えづらい場所もありました。

### ○駅のおみやげ店調査

ねぶた期間中ということもあり、外国人観光客の姿も多く見られました。おみやげの品ぞろえはとても豊富で、たくさんの種類の食べ物やキーホルダーだけでなく、青森ならではの伝統工芸品やねぶたをモチーフにした雑貨などもあり、青森を満喫できる内容でした。おみやげ店の照明や外観なども工夫されていて、見ていて楽しい、おしゃれな空間でした。値段は少し高いと感じるものもありました。営業時間は新青森駅が9時～19時、青森駅は10時～20時ということがわかりました。また、新青森駅ではねぶた期間で臨時レジが設置されていましたが、それでも長い列ができていたり、ごみ箱からごみがあふれたりしていました。



### ○観光名所の見学

市営バスに乗車し、観光名所である「三内丸山遺跡」と「リンクステーションヒルズ雲谷」の見学に行きました。

三内丸山遺跡では、外にたて穴住居やほったて柱建物が広がっていて、当時の人が着ていた服を着る体験や、土器づくりなどの体験ができ、実際に縄文時代を身近に感じることができます。ミュージアムの中には、たくさんの土器や人の模型などが展示されていて、映像で縄文遺跡群を見ることができ、とても分かりやすかったです。また、タブレットを使った解説は多言語に対応しており、外国の方にもやさしい工夫がされていました。さらに、縄文食材を使った料理を楽しめるレストランや、おみやげ店もあり最後まで縄文の世界を楽しむことができました。観光客の皆さんにも、ぜひこの魅力を体感してほしいと思いました。



リンクステーションヒルズ雲谷では、ヒルズクラブ前からスタートし、ケビンハウスやキャンプ場を通過して山側の遊歩道を歩きました。真夏の時期でしたが、標高が高いため涼しく、自然に囲まれた道はとても気持ちよかったです。途中では市内を一望できる場所や、そば畑、ひまわり・コスモス畑など、普段は見られないような景色を楽しむことができました。ヒルズクラブの中には、プールやキッズルーム、特産物が売られているお店があり、テラスには輪なげやストラックアウトなどの遊びスペースもありました。モヤヒルズは冬のスキー場のイメージが強いですが、夏にもたくさんの魅力があります。初めての人にも分かりやすいようにイラスト付きの案内看板を設置したり、季節ごとのイベントを行うことで、もっと多くの人を訪れると思いました。

## ○子ども会議弁当づくり

青森市の特産物で作ったお弁当のメニューは、「源たれからあげ」「貝焼き味噌」「しょうが味噌おでん」「嶽きみごはん」「りんごドレッシングサラダ」の計5品です。また、子ども会議や子どもの権利相談センターのPRもかねて、それぞれのキャラクター入りのつまようじを作りました。源たれからあげは、辛くなく、子どもから大人まで食べられる味で大好評でした。貝焼き味噌は、卵を準備するだけで電子レンジでも作れるタイプを使いましたが、本格的な味でとても美味しかったです。しょうが味噌おでんはお弁当としては斬新なメニューでしたが、こちらも好評でした。嶽きみごはんは、調味料を使わなくても、嶽きみ本来の甘みで十分美味しかったです。りんごドレッシングサラダは、作るとき少し不安でしたが、りんごの酸味と野菜がよく合い、好評でした。青森の魅力がぎゅっと詰まったこのお弁当をPRすることで、青森に来てくれる人が増えたらうれしいです。完成したお弁当は、青森市子ども会議の公式Instagramに投稿しました。



## <意見表明>

以上の今年度の活動をふまえて、私たちLet's go! Town make グループは、青森市をより良くするため、また、将来、青森市がこうなしてほしいという思いを込めて、3つのテーマ「交通」「除雪」「ごみ」について意見を表明します。

## ○交通について

### ★課題と解決したい理由

青森市のまちなかでは、人通りが多い場所での路上駐車や駐輪禁止区域に自転車が停められている様子が見られます。これらは通行の妨げになるだけでなく、事故の原因やまちの景観の悪化にもつながると感じました。また、市営バスについては、利用する人が少ないためなのか、運賃が高く、本数があまり多くないのではと感じています。

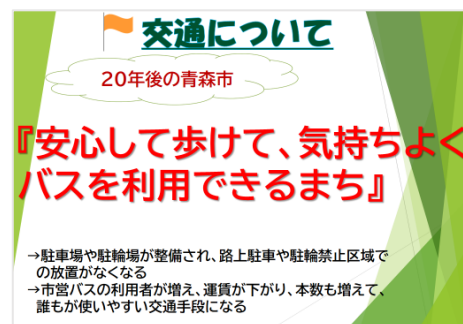
### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、「安心して歩けて、気持ちよくバスを利用したりできるまち」になってほしいです。

20年後の青森市は、駐車場や駐輪場が使いやすく整備され、路上駐車や駐輪禁止区域での駐輪が無くなります。また、市営バスの利用者が増え、運賃が下がり、本数も増え、みんなが使いやすい交通手段になっています。

### ★必要と考える取組

新町周辺に無料の駐輪場を増やし、既存の駐車場・駐輪場に屋根や監視カメラを設置して安全性や快適性を高めたり、マナー啓発のポスターを掲示して路上駐車や駐輪禁止区域の意識を高めることで、駐輪が減って安心して歩ける道となり、まちの景観も良くなると考えます。また、市営バスの利



用促進のために、ポスターや SNS で PR したり、バスの車体を人気のある絵や写真にするなど、利用したくなるような工夫をしていくことでバスの利用が増え、より快適に過ごせるようになると考えました。

## ○除雪について

### ★課題と解決したい理由

青森市では、通学路などの歩道の雪が十分除かれていなかったり、排雪作業が追いつかないことがあります。その結果、雪による事故の危険性が高まったり、雪かきに時間がかかって家族と過ごす時間が減ってしまうなど、冬が苦しい季節になってしまっていると感じました。

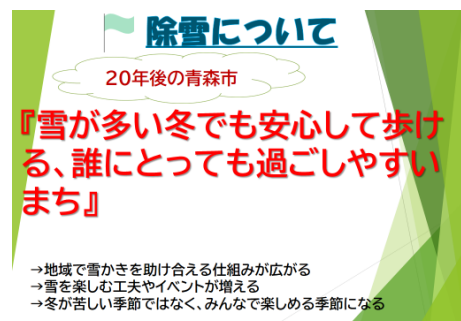
### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、「雪が多い冬でも安心して歩ける、誰にとっても過ごしやすいまち」になってほしいです。

20年後の青森市は、地域で協力し合える仕組みがさらに広がり、雪かきが大変なときはみんなで協力し合っています。また、雪を楽しむ工夫が増え、雪だるまの大きさを競うコンテストや雪の職業体験などが行われ、冬が苦しい季節ではなく、みんなで楽しめる季節になってほしいです。

### ★必要と考える取組

効率的な除排雪の仕組みを整えることのほか、地域で協力するため子どもたちによる雪かきグループの設立、また、除雪機の貸与事業をもっと周知するため、ホームセンターなど除雪機を販売している場所にチラシを掲示することで、より多くの人々が除雪に参加しやすくなると思います。そのほか、雪を楽しむために冬ならではの職業体験や、雪を使ったイベントなどを実施することで、冬を楽しく過ごせる季節にすることができると考えました。



## ○ごみについて

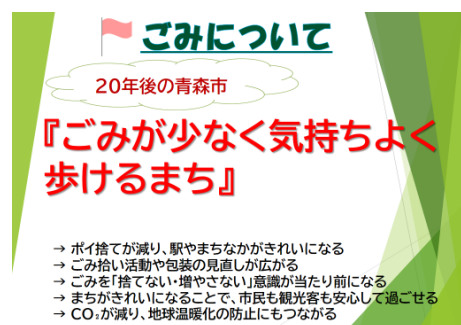
### ★課題と解決したい理由

観光客が増えたりすることで、ポイ捨てなどによるごみが増えるとまちが汚なくなったり、ごみの焼却量が増えることで地球温暖化が進んで、もっと暑くなり、暮らしにくいまちになってしまいます。そのため、市民のまちへの愛着が薄れたり、観光客が減ってしまうのではないかと感じました。また、お土産はきれいに包装しているものが多いですが、使ったあとすぐに捨てられることが多くもったいないと感じました。

### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、「ごみが少なく、歩いていて気持ちのよいまち」になってほしいです。

20年後の青森市は、ポイ捨てが減り、まちや駅もきれいになっていて、ごみ拾いの活動の広がりや、包装紙の見直しなどが進み、みんながごみを捨てない・増やさないという心がけが当たり前になっています。まちがきれいになることで、観光客も安心して訪れることができ、市民にとっても暮ら



しやすくなります。さらに、ごみが減ることでCO2も減り、地球温暖化の抑制にもつながってほしいです。

### ★必要と考える取組

ポイ捨てが減るように、ユニークなデザインや圧縮機能付きのごみ箱の設置や、外国の方向けにごみを捨てないことをイラストや多言語でわかりやすく案内するポスターを掲示したり、ごみ拾いのボランティア活動を増やすこと、また、おみやげの包装をプラスチックフィルムから紙製にしたり、使ったあとに折り紙やメッセージカードとしてリメイクできるようなデザインにするなど、ごみを減らし、再利用して大切に使うという意識を持ってもらうことで、美しく安心して暮らせる青森市につながっていくと考えます。

ぜひ、私たちが思い描く青森市になってほしいと思います。

### 市からの意見・感想

(市民部 佐藤部長)

自転車の駐輪については、歩行者の安全な行き来とまちの景観を維持するために、条例をつくり、青森駅東口周辺区域の歩道部分を自転車放置禁止区域にするとともに、自転車利用者のために、東口と西口に合計約1,360台の駐輪が可能な駐輪場を設置し、無料で利用いただいています。自動車駐車場につきましても、東口と西口に合計約50台の駐車が可能な駐車場を整備しています。



このほかに、現在、専門の巡視員によって放置禁止区域の毎日の巡回指導を行い、見えにくくなった駐輪禁止標示などの貼替も行っているほか、広報紙、ホームページでの周知啓発活動を通して既存の駐輪場の利用促進と安全な歩行空間の確保に努めています。

ご意見をいただきました駐車場や駐輪場をもっと増やしたい、今あるものに屋根等を付けたりすることで、より一層利用しやすくなり、また、路上駐車、駐輪禁止区域での駐輪が減って、まちの安全性・景観の向上につながるというアイデアはとても効果的だと思いました。

20年後の青森市のすがたを見据えた皆さんの声を、しっかりと受けとめ今後のまちづくりに活かしていきたいと思っています。

(環境部 齊藤次長)

皆さんがまちをよく観察して、ポイ捨てによるごみに着目し、青森市を「明るくてきれいな 住みやすいまち」にしたいという熱意が、とてもよく伝わりました。また、地球温暖化の防止をも視野に入れて、ごみの削減に向けた具体的な提案をいただき、とても嬉しく思っております。



市では、令和6年3月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにすることを目指しています。その中でも、ごみは取り組むべき課題の一つとなっており、ごみ箱を設置するとなんでも捨てる人がいる一方で、きれいな場所だとごみを捨てにくくなるという効果もあり、ごみ箱の

設置の問題はとても難しい問題だと思っております。

「広報あおもり」やホームページでポイ捨て防止を呼びかけたり、毎年、小学4年生の方に「ジュニア版ごみハンドブック」をお配りして、みんなで公共の場所をきれいにしようと呼びかけております。また、町会の皆さんと協力して「市民一掃きデー」などのボランティア清掃も行っています。

皆さんの地域でも、一生懸命ごみ拾いをして、きれいなまちをつくらうとしている方がたくさんおります。ぜひそうした活動に参加していただいて、新しいアイデアや工夫を見つけてください。

これからも、みんなで力を合わせて、明るくきれいな青森市を一緒につくっていきましょう。

(経済部 横内部長)

今年、青森駅前地区に導入した電動アシスト付きのレンタサイクルや昨年リンクステーションヒルズ雲谷に整備した登山道など、新たな魅力にスポットを当てて調査して、大人の私たちでは気づかない子ども目線で、今後とても参考になる提案をいただいたことに、まずは感謝します。ありがとうございました。

まず、除雪に関する発表の中で、冬をみんなで楽しめる季節になってほしいとのご意見がありました。青森市は人口30万人規模のまちとしては、世界一雪が降ると言われており、雪と親しむ取組はとても大切なことだと考えています。

青森市では、冬のイベントとして、青森駅前地区で毎年12月から2月にかけて、「青森冬のワンダーランド」と題し、雪の大型滑り台などが体験できる「青森雪まつり」や、県内でも珍しい雪の中で打ち上げる「冬花火」などを開催しています。また、皆さんがスキー教室で訪れるリンクステーションヒルズ雲谷でも、家族や仲間と協力してスコップで雪を掘り起こす「地面掘り競争」や、大抽選会、雪上ゲーム大会、スキー大会などが行われる「ウインターフェスティバル」などを開催していますので、この冬は、是非、これらのイベントに参加して青森の冬の楽しさを体感してもらいたいと思います。

ご紹介したイベントは、毎年、新しい企画を検討していますので、皆さんからもご提案がありました「雪だるまの大きさを競うイベント」や「雪の職業体験」も、今後の検討材料とさせていただきます。

次に、ごみに関する発表についてです。青森は外国人に人気の観光地で、東北では宮城県に次いで、たくさんの外国人観光客が訪れる県です。中でも、青森市には、昨年、約16万人の方が宿泊をして、コロナ前の令和元年と比べ約1.5倍に増加しています。それから、青森港には、大きいものでは約4千人が乗船するビルのようなクルーズ船が、今年は東北で一番多い41回訪れ、多くの外国人観光客の皆さんが市内などを散策しています。

青森市では、外国人観光客の皆さんが、安心してまち歩きを楽しめるように、英語、中国語、韓国語などで記載したまち歩きマップや看板等を作って観光案内を行っているほか、青森駅前地区の商店街では、どのような商品が売られているか、英語で話せるスタッフがいるかが分かるポスターを店舗入口に貼り出すなど、観光客のおもてなしに取り組んでいます。

皆さんから、外国の方向けにイラストや多言語でわかりやすく案内するポスターの掲示といったご意見がありましたが、観光客の視点に立った良いご提案ですので、マップなどを更新する際に参考



とさせていただきます。

最後に、今日、参加している子ども会議の皆さんにお願いがあります。今年は開港 400 年、そして来年はまちづくり 400 年という青森市にとって大きな節目の年になり、様々な記念行事やイベントが開催されます。これらのイベントについて皆さんのご参加と友達やご家族、ご親戚などへの PR、そして今後、観光客と接する機会がありましたら、また、青森市に来たいと思ってもらえるように、おもてなしにご協力をお願いします。

(都市整備部 土岐理事)

青森市は、国内外でも有数の豪雪都市で、毎年やってくる降雪時期を安全・安心で、快適に過ごせるためのまちづくりは大きな課題となっています。今回、除雪についての 20 年後の青森市のすがたとして、地域のみんなで協力する仕組みや雪で大変なときでも助け合える仕組みづくりの大切さなどを描いてくれたことは、私たち市役所職員にとっても、とても参考になるものであり、将来に向けて大きな励みとなりました。



昨年度は、年末年始の短期間に集中的な降雪による記録的な豪雪災害になるなど、近年の気象状況はこれまでと大きく変わってきています。皆さんの通学路などの歩道については、市の職員によるパトロールで状況を確認しているほか、各町会や地域住民の皆さん、学校関係者の方などから情報提供をいただきながら、除雪が必要であると判断した時は、除雪事業者に出動指令を出して除雪を実施しています。

また、冬期間の安全で快適な歩行者空間を確保するため、自主的に地域の歩道などの除雪に取り組んでいただいている P T A の皆さんや町会の皆さんなどに対して、市がハンドガイド式小型除雪機を無償で貸与する事業を行っており、今年度は今日現在で市内 98 団体に貸出しをしています。

本日、ご提案のありました効率的な除排雪体制の構築に向けた取組や、除雪機の貸与事業をはじめとする雪対策に関する情報を広く周知する取組など、皆さんからの声をしっかり受け止め、皆さんと一緒に雪に強い青森市をつくり上げていくことが、とても大切なことだと改めて感じました。

(交通部 高野部長)

先ほどの発表のなかにもありましたように、子ども会議委員の皆さんは、実際に市営バスに乗り、いくつかの観光地を訪れました。その際、交通部の職員とのやり取りや観光地での様子などを通じて、それぞれが青森市の現状を自分ごととして捉え、また、積極的に考えている姿勢が印象的であったと、同行した担当者から伺っております。



今回、市営バスに対しても、様々なご意見・ご提案をいただきました。20 年後の市営バスが利用される方々にとって、より一層使いやすい手段となりますよう、皆さんの意見表明も参考にしながら、引き続き取組を進めてまいります。

それから、市営バスは令和 8 年 3 月 6 日に創業 100 周年を迎えます。この記念すべき 100 周年記念事業の一環として、皆さんもご存知のポケットモンスターのピカチュウをはじめ、数々の人気キャラクターを制作しました「にしだあつこ」さんが、青森市の花であるハマナスの花の実をモチーフと

しましたキャラクターを制作してくれました。

皆さんの発表の中に市営バスの利用促進のための提案として、バスの車体へのラッピングがありましたが、このキャラクターをデザインしたラッピングバスを、現在、計画中ですので、楽しみにしててください。

また、100周年記念事業として、子ども会議委員の皆さんのアナウンスによるバス停や観光地の案内のバスの車内放送をすることとしており、先日、その収録を行いました。4月からその音声が流れますので、委員の皆さんも、本日会場にお越しの皆さんも、ご家族やご友人などと一緒に実際に市営バスに乗って、子ども達のアナウンスを聞いていただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。

### 委員からの感想



理事者の皆さんからの話を聞いて、外国人観光客が東北の中で宮城県の次に多いということなど、私がまだ知らなかったことをたくさん知ることができ、今後の子ども会議の活動に活かしていきたいと思いました。

また、私たちが発表した20年後の青森市に向けたまちづくりの意見も、ぜひ今後のまちづくりに活かしていただきたいと思います。次の世代、さらに次の世代まで続く青森市になってほしいと思います。

本日はお忙しい中、私たちの意見表明を聞いてくださりありがとうございました。

### 私たちからの意見表明（青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～）

#### <20年前の青森市>

20年前の青森市について、子どもの権利を中心に調べてみると、20年前から青森市が「子どもの権利を大切にすまち」として歩み続けていることがよく分かりました。

#### ○青森市子どもの権利条例について

今では全国で81の自治体が、子どもの権利を守るための条例をつくっているようです。

青森市がこの条例を制定したのは、平成24年（2012年）の12月25日でした。つまり、20年前の青森市にはまだ「子どもの権利条例」が無かったことがわかりました。青森市子どもの権利条例では、「子どもの最善の利益を第一に考えること」「子どもを保護されるだけでなく、自分の意見を言える権利を持った存在として尊重すること」「年齢や発達に合わせた支援を行うこと」が定められています。また、大人の責任として、保護者や先生、地域の人たちが子どもの権利を尊重することが求められていることがわかりました。さらに、市の取り組みとして「子どもの権利を広める活動」や「学びの機会の提供」、そして毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」と定めていることも特徴です。

#### ～20年前（2005/H17年頃）の青森市～

##### ☆子どもの権利

…平成17年12月に東京都目黒区が全国で4番目に子どもの権利を守るための条例を定めた！（青森市は34番目）

##### ☆青森市子どもの権利条例

…青森市子どもの権利条例は、平成24年12月に制定！

##### ☆子ども会議

…平成16年に青森市子ども会議の前身「青森市こども委員会」を設置！

## ○子ども会議について

子どもが市政について意見を言える場として「青森市子ども会議」を設置し、この活動は、平成16年に始まった「青森市こども委員会」を前身とし、21年間続いています。子ども会議では、子どもが実際に市の人に意見を伝え、その意見が採用された例もあります。このように、子どもの意見がまちづくりに生かされる仕組みが長く続いているのは、とても有難いことだと思いました。全国的に見ても、青森市のように子どもが自分の意見を表明し、市政に参加できる取組が長く続いている例は多くはありません。

ここから、私たちが考える「20年後の青森市」について調査・研究活動を通して話し合いを重ねてきた結果を発表します。

### <活動をはじめたきっかけ>

将来より良い青森市にするためには、「全ての子どもに子どもの権利を理解してもらうこと」「大人も子どもの権利を知る機会を増やすこと」が必要だと考え、子どもの権利に視点を置いて活動を進めてきました。



グループ名のライトには英語で権利を意味する「Right」と光・明るさを意味する「Light」という2つの意味が込められています。これらの思いを具体的に表すために、サブタイトルを付けて「青森ライト～権利で青森の明るい未来～」としました。

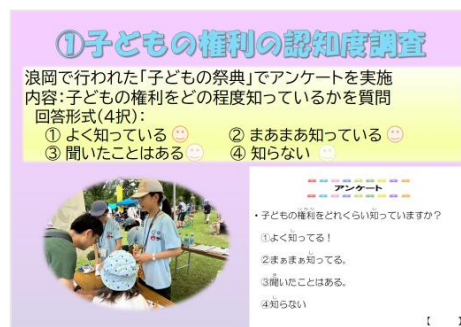
私たちはこれまでに、「子どもの権利の認知度調べ、イベントでの子どもの権利の普及啓発活動」、「子どもの権利に関する講座の受講」、「市営バスのラッピングや車内掲示による子どもの権利のPR方法の検討」、「子どもの権利相談センターの紹介動画の作成」などの調査研究活動を行いました。

### <調査・研究活動>

#### ○子どもの権利の認知度調査

7月に浪岡で行われた子どもの祭典でのブース出店の際に、子どもの権利に関する認知度アンケートを実施しました。質問は「子どもの権利をどれくらい知っていますか？」で、①よく知っている②まあまあ知っている③聞いたことはある④知らない、の4択で回答してもらいました。

アンケートの結果は、①よく知っている：13人、②まあまあ知っている：25人、③聞いたことはある：32人、④知らない：56人という結果でした。合計126人もの方がアンケートに回答してくれました。「よく知っている」「まあまあ知っている」と答えた方もいる一方で、内容をあまり知らない方も少なくありませんでした。



## ○イベントでの子どもの権利の普及啓発

7月に開催された浪岡の「子どもの祭典」では、子どもの権利や子ども会議をPRするブースを出展しました。子ども会議委員が考えた子どもの権利に関するクイズを、○×の的を倒しながら答えるゲームや、子ども会議のキャラクターを使ってスノードームづくりなどを行いました。スノードームは材料を150個用意していましたが、全て無くなってしまったので、多くの子どもたちに遊びを通して楽しんでもらいながらPRすることができたと思います。

また、8月には青森ねぶた祭に参加して、子どもの権利と子ども会議のチラシやねぶたの鈴などをセットにしたものや花笠マスコットなどの子どもの権利のPR物品を配りながら子どもの権利や子ども会議についてPRしました。昨年度に引き続き、青森市社会福祉協議会のボランティアアドバイザーの皆さんから作り方を教えていただきながらみんなで花笠マスコットを作成し、子どもの権利に関する標語をつけて配布しました。細かい作業に苦戦することもりましたが、観光客の皆さんが手を伸ばして喜んで受け取ってくれて、嬉しかったです。

各種イベント等を通して、少しでも多くの人に「子どもの権利」や「子ども会議」を知ってもらえるよう活動しました。



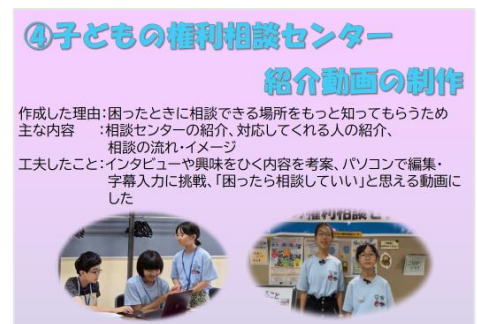
## ○市営バスを使用したPR方法の検討

もっと多くの人に子どもの権利を知ってもらうためには、毎日目にするものに伝える仕組みが必要だと考えました。そこで思いついたのが、市営バスへのラッピングや車内掲示によるPRです。実際に市営バスに乗って、掲示スペースの位置や見えやすさを確認しながら調査を行いました。バスの車内には、席の上の方や座席の後ろ、窓、車体には側面の部分や後ろに掲示ができるスペースが見られました。バスの車内には、昨年度の子ども会議で作成した「子どもの可能性新聞」を貼り、ねぶた祭りの子どもの権利普及活動で配った「花笠マスコット」をぶら下げたいという意見や、バスの外側には、「子ども会議って知ってる？」という文字や、「けんりはかせ」、子どもの権利相談センターのマスコットキャラクター「ほたまる」などのイラストを載せたいという意見が出ました。



## ○子どもの権利相談センターの紹介動画の制作

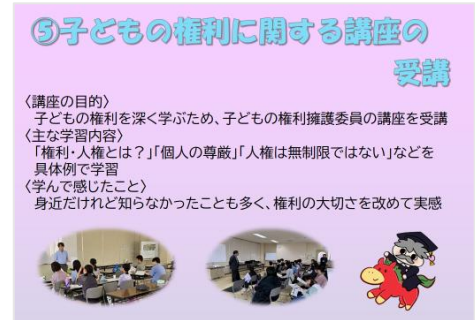
困ったときに相談できる場所として、青森市には「子どもの権利相談センター」があります。より多くの人に知ってもらうため、子どもたちにもわかりやすく伝える動画の撮影をしました。動画では、興味を引けるように、子どもの権利擁護委員や相談員にインタビューをしたい、どういう人が相談に対応してくれるのかというのを紹介したいなどたくさん



の案がでました。その結果、「子どもの権利相談センターの概要を紹介」、「相談対応者を紹介」、「相談状況イメージを紹介」の3種類を作ることになりました。パソコンでの編集作業にチャレンジし、難しいながらも字幕の入力にも挑戦しました。見た人が「もし困ったらここに相談していいんだ」と思ってもらえるよう、心がけました。

### ○子どもの権利に関する講座の受講

子どもの権利についてより深く知るために、子どもの権利擁護委員の先生にお越しいただき、講座を受けました。「権利とは?」「人権とは?」、「個人の尊厳について」「人権は無制限ではないこと」などについて、具体例を用いてわかりやすく解説していただきました。権利や人権のことを楽しく学ぶことができ、身近だけれど初めて知る内容もあり改めて大切さに気づくことができました。



### <意見表明>

以上の今年度の活動などを基に、私たち青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～グループは、青森市をより良くするために、また、将来、青森市がこうなってほしいという思いを込めて、3つのテーマ「子ども会議」「子どもにとっての子どもの権利の認知」「大人にとっての子どもの権利の認知」について意見を表明します。

### ○子ども会議について

#### ★課題と解決したい理由

青森市では、子どもの権利の普及啓発や市の施策について意見表明を行っている子ども会議のことを知らない人が多いと思います。友達に「子ども会議って何?」と聞かれることがあることや、委員数がまだまだ少ないため、活動の輪が広がりにくいと感じています。

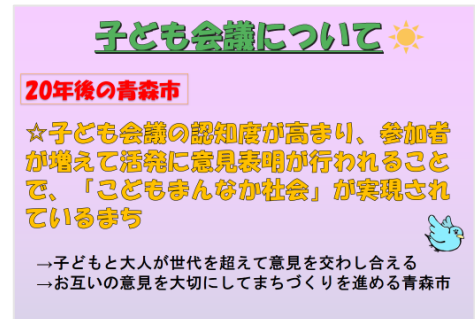
#### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、子ども会議の認知度が高まって、参加者が増え、活発に意見表明することにより「こどもまんなか社会」が実現されているまちになってほしいです。

20年後の青森市は、世代を超えて意見が交わされ、子どもも大人もお互いの意見を大切にしながら、より良い青森市がつくられています。

#### ★必要と考える取組

新聞やチラシ、ポスターなどで子ども会議のことや子ども会議で行っているイベントを周知したり、委員が積極的に友達に紹介したりして認知度を上げることで、子ども会議の委員数が増えて活動が活発になり、子ども会議の輪が広がると考えます。



## ○子どもの権利の認知(子ども)について

### ★課題と解決したい理由

青森市では子どもの権利のことを知らない子どもがまだまだ多く、また、子どもの権利について学習しようとする意欲が低い子どももまだまだ多いと思います。子どもの権利について詳しく知らないために、子どもが自分の意見を伝えることを諦めてしまっていることが多いのではと感じています。

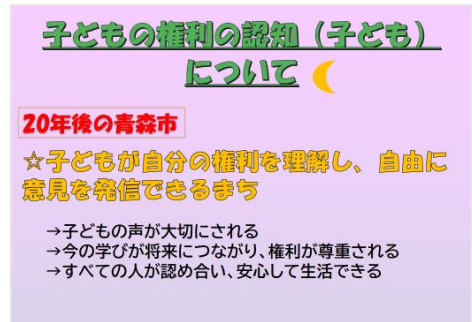
### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、子どもたちが自分の権利について理解し、意見を自由に発信できるまちになってほしいです。

20年後の青森市では、今の学びが将来につながり、子どもたちの権利が尊重されるまちとなって、みんなが安心して暮らすことができます。

### ★必要と考える取組

現在主流なコミュニケーションツールとなっている SNS を活用し、動画などで情報発信を行うことにより認知度を高めることや、子どもの権利をより楽しく学べるイベントを継続して実施することで、今から子どもの権利をしっかりと学ぶことができるとともに、今の子どもが将来、子どもの権利を理解した大人となり、市民全体への理解が広がっていると考えます。



## ○子どもの権利の認知(大人)について

### ★課題と解決したい理由

青森市では、大人が子どもの権利について十分に理解していないため、子どもの悩みが聞き入れられないことがあったり、いじめや差別などの問題が見逃されてしまう可能性がありますと感じています。

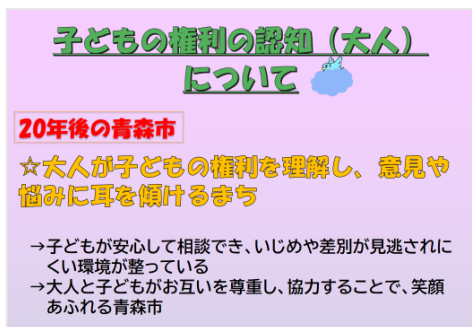
### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、大人が子どもの権利をしっかりと理解し、子どもの意見や悩みに耳を傾けるまちになってほしいです。

20年後の青森市では、子どもが相談しやすい環境が整い、いじめや差別などの問題も見逃されにくくなっています。大人と子どもがお互いを尊重し、協力することで笑顔あふれる青森市になっています。

### ★必要と考える取組

大人向けの研修会や学習機会を増やすとともに、子どもの権利を守るためにできることなどの意見を大人から聞いて、集まったアイデアを子ども会議フォーラムやパネル展で紹介することで、大人も子どもの権利をしっかりと理解できるようになっていくと考えます。



ぜひ、私たちが思い描く青森市になってほしいと思います。

## 市からの意見・感想

(こども未来部 大久保部長)

子どもの権利をテーマに調査や活動を進めてきた皆さんの「子どもの権利を広めたい」という強い思いがしっかりと伝わってきました。子ども会議は、皆さんの意見を聞くことができるとても貴重な機会です。子ども会議の認知度が高まることは、多くの子どもたちに参加してもらえるきっかけとなり、さらに活動が活性化されることと思います。より良い青森市をつくるために多くの子どもたちの意見が聞けるよう、皆さんと一緒に子ども会議の活動の輪を広げていきたいと思っておりますので、これからも力を貸していただければと思います。



子どもの権利の普及・啓発については、市では広報あおもりや市のホームページ等を活用しているほか、子どもの権利に関するリーフレットや青森市子どもの権利相談センターの携帯カードを小学生から高校生まで全員に配付することにより行っています。また、大人に対する子どもの権利の普及啓発活動としては、子どもの権利擁護委員による出前講座を開催しており、多くの団体の皆さまにご利用していただけるよう、様々な場で出前講座の周知を行っています。

発表の中にもありました、市営バスのPRであったり、動画作成、そして研修の増加などとてもいい考えだなと思いました。今回、20年後の青森市のすがたを描いてくれたことは、より良い青森市をつくっていくために働いている私たちにとってもとても大きな気づきになりました。

子ども会議委員の皆さんの声をしっかりと受け止め、一緒により良い青森市をつくっていくことが、とても大切なことだと改めて感じています。これからも、自分の思いや意見を大切にしながら、周りの人と協力して行動できる皆さんでいてほしいと思っています。

## 委員からの感想



先ほど、子どもの権利擁護委員の先生方による出前講座の周知を行っているという話を聞いて、改めて子どもの権利について子ども自身が詳しく学びしっかり理解することのほか、周囲の大人も詳しく知り、子どもに伝えていくことが大切だと思いつながりながら活動しているので、出前講座の周知活動は、今後も継続して行っていただきたいと思いました。私たちも、さらに子どもの権利を広めていけるような活動をしていきたいと考えています。

子ども会議の認知度を高めることや、大人向けの研修会の機会を増やすことで、青森市全体に子どもの権利が広がり、子どもたちが自分自身の持っている権利を理解し、助けを求めたいときに周囲の大人に意見を伝え、子どもたち自身の心と体を守ることができるように私たちは強く願っています。

子どものうちに、そういった経験を持つことは、将来その子どもたちが大人になったときに、未来の子どもたちにも権利の大切さを伝えることができ、また、子どもから信頼感を持ってもらえるような大人になることができると思うので、子どものうちに権利を学ぶことの重要性に改めて気がつくことができました。

そのような未来を胸に私たちはこれからも、子どもの権利の大切さをどのように伝えられるか、子

どもたちが安心して意見を表明できる環境づくりについて常に考え、話し合いを重ねていきたいと思ひます。また、子どもの権利を主張するだけでなく、身近な人の権利を尊重する行動を通して、その重要性を示していくことも大切にしていきたいと思ひています。

本日の意見表明の中で、もし取り入れていただける意見がありましたら、ぜひご検討いただければ幸いです。本日は私たちの思ひをお聞きいただき、誠にありがとうございました。

### 教育長からの感想



まず、Let's go! Town make チームの意見表明ですが、見たこと、あるいは聞いたこと、そして考えたことしっかり発表していたと思ひます。交通、除雪、そしてごみの問題、これはまちづくりにとっては欠かせない事だと思ひています。そしてまた、この3つが関連し合っているということにしっかりと気づいて発表しているということもお見事であったと思ひます。皆さんは学校において地域の課題について勉強したり、その勉強した課題についてボランティア活動をしているかと思ひますが、そういった取組が将来、青森市の取組となっていければよいと思ひておりますので、今日発表したことを基に学校に戻ってもしっかりと勉強しながら取り組んでほしいと思ひています。がんばってください。

それから、青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～チームの子どもの権利についてですが、1つは子どもの権利の認知度が低いということ、それから、2つに子どもの権利を守ろうという取組がしっかりとしている都市はそれほど多くないということをお話していただきましたが、そういった中から、様々な取組を考えてくれました。イベント、バス、動画等については、比較的实现性が高い取組なのではと思ひましたし、実現してくればよいという感想を持ちました。権利については、多くは失われたときに大体気づくものです。そういった意味では、権利についての認知度が低いということは、青森市の子どもたちはお父さん、お母さん、あるいは先生、皆さんを取り巻く大人の人たちにしっかりと見守られているということではないかと思ひています。是非そのことにも気づいてほしいと思ひます。一方で青森市のいじめの件数は、昨年1年間で16,000件になっています。多くはからかいなど小さなものですが、実際にはそういうことが起こっています。今日、皆さんの発表はとても大切なことだと思ひます。是非、子どもが子どもの権利を認めるというところをしっかりと取り組んでいただければ私たちもうれしいと思ひますし、それから、大人社会の中でも皆さんが表明したことをしっかりと頑張っていきたいと思ひております。

青森市の子どもたちは元気を表明するだけではなくて、しっかりと人のためにボランティア活動等ができる子どもたちです。自慢の子どもたちです。昨年、ボランティア活動をした人数は延べで50,000人となっています。こういう子どもたちは他にはいないのではないかと思ひています。

今日発表した20年後というのは、きっと皆さんの時代だと思ひます。そういった意味では今日発表したことを作り上げていくのは皆さんであるということも言えるかと思ひますので、学校でしっかりと勉強しながら、そういう青森市を作ってほしいと思ひます。

## 市長総括



まずは Let's go town make の皆さんですが、20 年前の青森市と今の青森市、大きくまちが変わっていることを実感してもらえたのではないのでしょうか。日本の多くのまちは 1960 年代頃から急激に発展し、公共施設や道路、上下水道が整備されていきました。それから 60 年以上が経ち、全国的に老朽化が進む時代に入っています。青森駅も 50 年以上使われ、老朽化に伴い建て替えされることになりました。まちは常に新しく変わっていきます。その時々で、どんなまちが求められているのかを考え、皆さんが意見を出していくことがとても重要だと思っています。より暮らし

しやすいまちづくりのために、今後是非ご協力をお願いします。

今回、市営バスや雪、ごみに関する意見表明をいただきました。どれも、昔から青森市が取り組んできている重要な課題であり、新たな意見を頂戴することができました。

また、皆さんはこのまちを知るために、いろんなところに出向き、バスを利用したり、観光客の状況を調べたりなどの活動をしていただきました。おそらく 20 年前の青森港はクルーズ船が一隻も来ていませんでしたし、外国人観光客も今ほど多くありませんでした。しかし現在は、東北で一番クルーズ船が来て、一隻寄港すると 4,000 人～5,000 人がまちを歩く時代です。当時の想定では対応しきれない部分も出てきており、今後はさらにまちをバージョンアップしていく必要があると思っています。

おみやげ店の調査でも、青森駅の営業時間が 10 時～20 時である一方、クルーズ船は朝 7 時頃に寄港するため、外国人観光客の方から、朝に開いているお店が無いという意見をもらいます。現在、商店街の皆さんと、朝の営業について検討を進めています。変化に合わせてまち側も対応を変えていくということが求められますので、市民である皆さんからも「こんなお店があればよい」という意見を発信してほしいと思います。

交通面では、バスの本数が少ないという意見もありました。市営バスの大きな課題は、人口減少で、利用者が増えないことが背景にあります。そのためにバスの本数を増やすのではなく、昨年度から利用者が予約すると自宅まで迎えに来る「デマンド交通」を導入しました。人口減少が進む地域では、この仕組みをさらに広げていきたいと考えています。また、安心して歩けるまちが望まれる、というお話もありましたが、国も今ウォーカブルなまちづくりを推進しています。歩いて移動が完結できるまちを目指す取組で、皆さんの意見と重なるものですので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

除雪は毎年大変な作業ですが、皆さんが生活に支障がないように除雪の体制を作って毎年取り組んでいるところです。まもなく除排雪のシーズンを迎えますが、今年もしっかり取り組んでいきたいと思っています。

ごみの課題も大きく、青森市は昨年、2050 年温室効果ガス排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。それに基づいてごみ削減や、リサイクル推進に取り組んでいますが、実は青森市はリサイクル率がなかなか上がらないという課題もあります。是非リサイクルに対する意識を高めてほしいと思います。

声を上げるためには、まず知ることが大切です。まちの現状や魅力をよく知り、それを発信してい

くことがとても重要です。これからもその姿勢を持って、様々なことに取り組んでほしいと思います。

続きまして、青森ライトの皆さんです。子どもの権利条例は20年前にはまだ青森市にはありませんでしたが、全国的に広がっていた重要な取組です。子どもの権利の普及は、市としても今後さらに力を入れて取り組んでいきたいと思っています。アンケートの結果では、まだ知らないと答えた方が多かったとのことで、発信を強めていかななくてはならないと感じました。今日の子ども会議フォーラムもまさに多くの人に子どもの権利について、知ってもらうための機会として開催しました。マスコミの方も来ていますので、新聞やテレビで紹介されれば、多くの方にこの取組を知ってもらえるチャンスとなります。SNSを正しく使える皆さんの年代には、情報発信の手段として、今後も子どもの権利について知ってもらう機会として、大いに活用してほしいと思います。

10年後、皆さん大人になっていますが、子どもの権利をしっかり理解している皆さんだからこそ、次の世代にその大切さを伝える存在になれる。子どもから大人まで、みんなが子どもの権利の重要性を認識できる、そんな世の中になっていくと思います。是非これからも頑張してほしいと思います。今日は本当にありがとうございました。

## 閉会

最後に、記念撮影を行い、子ども会議フォーラム2025が終了しました。私たちが活動を通して感じたこと・考えたことに対して、市長や理事者から直接ご意見やご感想をいただき、私たちの声が市に届いたことがとてもうれしく思いました。今年度の残りの活動も有意義なものになるように取り組んでいきたいと思っています。



## 令和7年度 第12回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和7年12月21日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員13名、子どもサポーター1名、ファシリテーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 青森市子ども会議フォーラムの振り返り  
(2) グループ活動  
(3) 子どもの権利トークイベントに向けて

### 5 開催概要

2月7日（土）に開催予定の子どもの権利トークイベントに向けた準備を始めました。

#### 青森市子ども会議フォーラムの振り返り

11月16日（日）に開催した子ども会議フォーラム2025について、ファシリテーターの先生に進行していただき、振り返りを行いました。

初めに、当日の様子を振り返るため、フォーラムの写真をもとめたスライドショーを視聴し、その後、来場者アンケートの結果を共有しました。アンケートの回収率は85%で、「子どもたちのあいさつや発表がよかった」、「自ら調べ、考える姿勢がすばらしい」など、発表に対する肯定的な意見が多く寄せられました。他にも、今後の活動に向けたアドバイスもいただきました。

次に、ワークシートを使って、「フォーラム開催にあたり学んだこと」「頑張ったこと」「考えたこと」「今後のアイデア」「来年度の子どもの会議委員に伝えたいこと」などについて各自が記入しました。その後、グループごとにワークシートの内容を付せんにもとめて発表し、意見交換を行いました。

振り返りを通して、みんなで意見や気づきを共有することができ、来年度、より良いフォーラムの開催に向けて整理する機会となりました。今後の活動に活かしていきたいと思います。

#### グループ活動

<Let's go! Town make>

観光マップの作成について活動を行いました。前回までの会議で、マップに掲載する場所や項目を決定していたので、役割分担をしながら各項目の詳細について考えました。「青森駅周辺の駐車場・駐輪場」については、駐車台数や駐車料金を調べながら整理し、「青森駅と新青森駅のお土産屋さん」については、8月に実施した調査結果をもとに、おすすめポイントをまとめました。また、おすすめの観光スポットについては、施設の概要や営業時間、交通アクセスなどを調べ、情報の書き出しを行



いました。

全ての項目を記入することができたので、今回は、作成した観光マップを確認しながら修正作業を行い、完成させたいと思います。

#### <青森ライト ～権利で青森の明るい未来へ～>

今年度、これまで子どもの権利普及のために取り組んできた活動の成果の振り返りと、実施に向けた確認を行いました。市営バスで子どもの権利をPRするための車内外の掲示物について、委員が追加で提出した案も含めて改めてデザインを確認しました。また、意見BOXのデザインについて、委員が考えた3つの案のイメージを事務局が作成してくれたので、みんなで確認しました。話合いの結果、どれも捨てがたいので、全部活用したいということになりました。最後に、編集した3つの子どもの権利相談センターの紹介動画を確認したところ、字幕の色を話す人によって変えたい、「青森ライト」のロゴを統一したいなどの意見があったので、反映して仕上げたいと思います。

#### 子どもの権利トークイベントに向けて

去年のトークイベントの内容と当日のスケジュールを確認し、宿題として出していた「今年度取り組みたいこと」の意見を共有した後、高校生委員の進行のもと、当日の実施内容について話し合いました。

はじめに、アイスブレイクについて話し合いました。4つの選択肢の中から、子ども会議委員が希望するもの2つに手をあげてもらい、票数の多いものから「煮干しラーメンを作ろう」と「頭を使う！サイコロゲーム」の2つを実施することに決めました。

次に、トークゲームの形式について話し合いました。3つの選択肢の中から、子ども会議委員が希望するもの2つに手をあげてもらい、票数の多いものから「ディスカッション」と「子どもの権利条約カードゲーム」の2つを実施することに決めました。

続いて、お楽しみコーナーについて話し合いました。8つの選択肢の中から、子ども会議委員が希望するもの2つに手をあげてもらい、票数の多いものから「けんりはかせを探せ」「スノードームづくり」「紙コップもぐらたたき」の3つを実施することに決めました。また、今年度、青森ライトグループで作成することとしている「意見BOX」についても設置することにしました。

その後、イベント周知用チラシのデザイン作成、アイスブレイクのシナリオや準備物の検討、トークゲームのテーマや進行内容の検討、お楽しみコーナーの準備物の検討について、4グループに分かれて作業を進めました。チラシのデザイン作成グループでは、事務局が作成した案を参考にしながら、デザインのベースを決め、色やフォントを選んだり、トークゲームやお楽しみコーナーの説明文の作成を行いました。また、他のイベント内容の検討・準備を行う3つのグループでは、シナリオの作成、トークテーマの検討、当日使用する物品の整理など、役割分担をしながら準備を進めました。

今回は、トークイベントに向けた準備とリハーサルを行います。



## 令和7年度 第13回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和8年1月24日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員7名、事務局2名
- 4 活動内容 子どもの権利トークイベントに向けて
- 5 開催概要

子どもの権利トークイベントの準備を行った後、リハーサルをして流れの確認等を行いました。

### 子どもの権利トークイベントに向けて

まずは、お楽しみコーナーで使用する物品の準備を行いました。「意見BOX」で使用する箱を作るグループ、「けんりはかせを探せ」で使用する「けんりはかせ」に紛失防止の数字シールを貼るグループ、「スノードームづくり」の見本を作成するグループ、「紙コップもぐらたたき」の紙コップに「けんりはかせ」などのキャラクターを貼るグループの4グループに分かれて作業を進めました。どのグループも手際よく作業を進めるとともに、新しいアイデアを出し合いしながら取り組み、すべての準備を予定どおり終わることができました。早めに作業を終えたスノードーム作りのグループは、トークゲームで行うディスカッションのトークテーマの候補決めを行いました。前回までに話し合って決めた「ふつうって何だろう？」「安心できるときはどんなとき？」などに加え、「ルールや決まりは必要？」「友達って必要？」など、合計8つのテーマを候補として決定しました。当日は、これらの候補の中から参加者と一緒にトークテーマを選び、自分の話したいテーマでディスカッションを行う予定です。



次に、当日の役割決めを行い、司会進行、司会進行補助、各ゲームの担当などを決定しました。決まった役割のもとリハーサルを行いました。アイスブレイクでは、昨年度も行った「煮干しラーメンを作ろう！」と今年度新たに行う「頭を使う！サイコロゲーム」を実際にやってみました。どちらも盛り上がり、所要時間も丁度良かったので、本番も同様に行うことになりました。

トークゲームは、「子どもの権利条約ゲーム」と「ディスカッション」を行い、当日使用しないテーマの中から多数決でテーマを選び、本番より短い設定時間で話し合いの練習を行いました。どちらのトークゲームでもたくさん意見が出されていました。話し合いの流れを確認しながら実施し、最後にはグループで内容を取りまとめ、発表まで行うことができました。



今回は、トークイベント本番です。参加者に楽しんでもらえるように盛り上げながら、子どもの権利のさらなる周知に繋がるイベントになるようにしたいと思います。

## 令和7年度 第14回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和8年2月21日(土) 9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員6名、子どもサポーター1名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 市営バス100周年記念セレモニーに向けて  
(2) 活動報告会に向けて  
(3) グループ活動

### 5 開催概要

2月7日に開催を予定していた、「子どもの権利トークイベント」は、大雪の影響により、やむを得ず中止となりました。イベント開催に向けて、みんなで話し合いながら考えてきた時間を、また来年度の活動につなげていきたいと思えます。

今年度の子ども会議も残すところあと3回となり、次回に迫った市営バスの100周年記念セレモニーと活動報告会に向けて、活動を行いました。

#### 市営バス100周年記念セレモニーに向けて

約2週間後に行われる、市営バス100周年記念セレモニーに向けて、リハーサルを行いました。原稿を読む順番を決め、スライド操作は本番と同様にサポーターに担当してもらい、原稿とスライドを確認しながら、実際に読み進めました。一度通してリハーサルを行った後、修正箇所や確認したい点について意見を出し合いました。読み方がわかりづらい部分の確認や、「スライドの写真をもう少し大きくしたほうがいいのではないか」といった点について話し合いました。当日は、緊張するかもしれませんが、元気よく発表したいと思えます。



#### 活動報告会に向けて

活動報告会に向けて、まず報告会当日の流れと役割を確認しました。役割については、次回の会議で決める予定です。

次に、市長へのサプライズプレゼントや卒業委員への記念品について話し合いました。多くの案が出され、その中から候補を絞り込みました。イメージや必要な材料についても、みんなで積極的に意見を出し合いながら話し合いをすることができました。次回の会議で最終決定したいと思えます。

#### グループ活動

各グループでまだ完成していない作業を行いました。Let's go! Town make グループでは、今年

度行った活動をまとめた観光マップの最終確認をしました。実際にカラー印刷し、三つ折りにしたマップを確認しましたが修正点はなく、完成となりました。青森ライト ～権利で青森の明るい未来へ～グループは、市営バスを使用した子どもの権利のPRのため、バスに飾る「子どもの権利に関する標語付きの花笠マスコット」を作成しました。8月のねぶた祭の際にも作業しましたが、期間が空いていたため、説明書を見ながら作業を進め、全員で完成させることができました。

最後に、活動報告会の発表に向けたワークシートを使い、今年度の活動の中で楽しかったことやうれしかったことを記入しました。



次回は市営バス 100 周年記念セレモニーと、活動報告会に向けた活動を進めていきます。

# 令和7年度 青森市子ども会議 in 青森市営バス 100周年記念セレモニー

- 1 日 時 令和8年3月8日（日）9時00分～12時30分
- 2 場 所 青森市役所本庁舎 1階サードプレイス・3階会議室
- 3 出席者 子ども会議委員13名、子どもサポーター2名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 青森市営バス100周年記念セレモニーに向けて  
(2) 青森市営バス100周年記念セレモニー  
(3) 活動報告会に向けて

## 5 開催概要

青森市営バス100周年記念セレモニーに参加した後、前回に引き続き、活動報告会に向けた準備を行いました。

### 青森市営バス100周年記念セレモニーに向けて

初めに会議室に集まり、青森市営バス100周年記念セレモニーに向けたリハーサルを行いました。当日出席した委員全員で発表するため、原稿を読む順番の最終確認を行いました。各自で自分の担当部分を練習した後、実際にステージに立つ位置の確認をしました。また、最初と最後に全員で声を合わせる部分や、マイクの受け渡しについても確認しました。

本番30分前にはセレモニーの会場へ移動し、自分たちの席から前に出て発表し、席に戻るまでの一連の流れを確認して、本番に備えました。

### 青森市営バス100周年記念セレモニー

子ども会議委員が、次第の6番目で、青森市営バス100周年記念イベントの一つとして録音に参加した「こども車内アナウンス」の取組発表を行いました。



### 〈音声案内のきっかけ〉

今回の取組のきっかけは、市営バス100周年を記念して、交通部の方からお声がけをいただいたことでした。交通部の方からは将来にわたってバス交通を維持するため、「子どもたちに、バス交通に愛着をもってほしい」、「放送を聞いた利用者に親しみを感じてほしい」という願いがあることを教えていただきました。



### 〈録音した停留所〉

今回録音した停留所は、「浅虫水族館前」や「道の駅ゆーさ浅虫前」など全部で40か所です。この40か所は、観光地や利用者の多い公共施設など、多くの市民の皆さんが利用したり活動したりしている場所です。

1	浅虫水族館前	15	新橋	29	新橋口
2	道の駅ゆーさ浅虫前	16	文化会館前	30	駅出口通り
3	浅虫漁業駅前	17	NIT青森支店前	31	浅虫海通り
4	駅前大仏	18	橋本二丁目	32	千石川
5	金葉公園前	19	市役所前	33	志土町
6	北五ツツサザ前	20	湯田前	34	西島
7	新青森駅前	21	新町二丁目	35	新青森駅前
8	森特産物館前	22	奥戸通り	36	新青森駅前
9	中央公園前	23	八重通り	37	岩川小学校前
10	二内丸山公園前	24	新町一丁目	38	岩川小学校前
11	青森公立大前	25	吉川	39	久須赤松丁目
12	モリス	26	吉川一丁目	40	西島
13	野末利公園入口	27	アウラ前		
14	平野公園前	28	青森駅		

## 〈一言コメント〉

そのうち14か所は、私たち子ども会議委員が、その場所の歴史や魅力について調べわかりやすく紹介するため、「次は○○です。」の停留所の案内の後に自分たちで考えた「一言コメント」も添えて録音しました。

一言コメントを考えるのは大変でしたが、その場所について調べる中で、今まで知らなかったことや、新しい発見がたくさんありました。また、短い言葉の中で、その施設のよさや特長が伝わるように工夫しました。普段は気づかなかった青森市の魅力をあらためて知ることができ、とてもよい経験になりました。

1	浅草の歌謡館	浅草の歌謡館は、浅草区浅草2丁目にある、昭和30年代に建てられた歌謡館です。
2	深の野池一斗流立前	深の野池一斗流立前は、深の野池公園にある、一斗流立の停留所です。
3	深の野池公園	深の野池公園は、深の野池公園にある、公園の停留所です。
4	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
5	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
6	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
7	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
8	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
9	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
10	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
11	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
12	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
13	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。
14	浅草公園	浅草公園は、浅草公園にある、公園の停留所です。

## 〈概要説明〉

令和7年11月9日に開催された第11回子ども会議で、音声案内の録音を行いました。

当日は、録音をする前に、交通部の方から、青森市営バスの概要について説明をしていただきました。「市営バスの歴史」、「運行実績」、「利用者の割合」「近年導入したサービス」などについて、写真付きの資料で、わかりやすく解説していただきました。



普段、何気なく乗っていて、バスについて深く考えたことはありませんでしたが、お話を聞くうちにだんだん興味がわいてきました。市営バスには、こんなに長い歴史があり、知らなかったことを知ることができました。青森市の市営バスはすごいなと思い、楽しく学ぶことができました。今回の発表を通して、バスについて新しいことをたくさん知ることができて、よい経験になりました。

## 〈録音の様子〉

音声案内の取組について説明を受けた後、2つの班に分かれて録音を行いました。交通部の方から、利用者の皆さんが聞き取りやすいように、「明るい声」「はっきり」「早口にならないようにゆっくり」というアドバイスをいただきました。実際に録音が始まると、マイクを前に、とても緊張しました。でも「この声が、実際にバスの中で流れるんだ」と思うと、楽しみな気持ちと同時に、少し責任も感じました。



聞く人の気持ちを考えながら、どう聞こえているかを意識して話したり、聞きやすいように、はっきり話すことを心がけました。緊張して嘔んでしまうこともあったけど、楽しい経験でした。録音中は静かにする必要があり、終始、緊張感がありましたが、すべての録音が終わったときには、ほっとした気持ちと、やりきったという達成感がありました。

## 〈記念写真〉

最後に記念撮影を行い、音声案内の録音を終了しました。

録音した音声案内は、令和8年4月1日から令和9年3月31日までの1年間、放送される予定です。市営バスを利用されるみなさんが、私たちのアナウンスを聞いて、子ども会議の存在を知ってくれるとともに、ますます市営バスに愛着を持ってもらえたら素敵だと思います。



## 〈終わりに〉

市営バスが100年もの長い間、青森市民の生活を支えてきたことを強く実感しました。子どもである私たちも、100周年という大きな節目の取組に参加できたことを、とても嬉しく思っています。今回の活動が、市営バスの次の100年につながる取組の一つになれば嬉しいです。このような貴重な機会をくださり、ありがとうございました。

発表後は、引き続きセレモニーに参加しました。セレモニー終了後には記念撮影を行い、すべてのプログラムを終えました。



## 活動報告会に向けて

市長と卒業委員へのプレゼントについて、活動を行いました。市長へのプレゼントは、前回の会議で3つの候補に絞っていたため、完成イメージを掲載した資料を見ながら話し合い、投票数の多いものに決定しました。卒業委員へは、一人ひとりが思いを込めてメッセージを書きました。

次に、活動報告会に向けた役割決めを行いました。みんなが進んで立候補してくれたため、スムーズに決めることができました。役割決定後は、それぞれの担当に分かれて活動を行いました。原稿の確認や読み合わせ、スライドの作成、先輩委員へのメッセージ作成など、それぞれの役割に応じて準備を進めました。中高生委員やサポーターを中心に手分けして作業に取り組み、全員で協力した結果、予定していた時間よりも早く作業を進めることができました。



次回は、今年度最後の子ども会議となる「活動報告会」です。今年度の活動の集大成を、市長へ報告します。

## 令和7年度 青森市子ども会議活動報告会

- 1 日 時 令和8年3月14日(土) 13時00分～16時00分  
(活動報告会:14時30分～15時00分)
- 2 場 所 青森市役所本庁舎 1階サードプレイス・3階会議室
- 3 出席者 子ども会議委員16名、子どもサポーター1名、事務局4名
- 4 活動内容 ・令和7年度青森市子ども会議活動報告会  
(1) 開会  
(2) 市長あいさつ  
(3) 令和7年度青森市子ども会議活動報告  
(4) 卒業委員から後輩委員へのメッセージ  
(5) 後輩委員から卒業委員への感謝の言葉  
(6) 市長からの感想  
(7) 閉会  
・今年度の活動を振り返って

### 5 開催概要

ついに今年度最後の活動である、活動報告会を迎えました。

#### 開会

司会の開会のあいさつにより、活動報告会が始まりました。出席した委員とサポーターの紹介をした後、市長からごあいさつをいただきました。



#### 市長あいさつ



まずは先週3月8日に開催された市営バスの100周年の記念セレモニーで、皆さんの素晴らしい発表を聞くことができました。

今日は、この1年間、笑顔あふれる青森市をテーマに皆さんが活動した、まとめを報告してもらいます。Let 'go! Town make グループは、子どもの視点で様々なことを調べ、観光マップを作成したとのことで、後ほど拝見できることを楽しみにしています。また、青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～グループは、子どもの権利をどのように広めていくのかについて、たくさん意見を出し合いながら活動してきたと聞いておりますので、その報告を楽しみにしています。

皆さんは、青森市民の一員として、青森市をさまざまな形で元気に、そして明るいまちにするための活動に取り組んできたことと思います。一人一人が青森市をより良くしていくために協力することは非常に大切であり、私自身もさまざまな活動をしてきました。皆さんもこれから、こうした活動を忘れず、ますます頑張ってくださいと思います。それではよろしく申し上げます。

## 令和7年度青森市子ども会議活動報告

まず11月には、青森市子ども会議の一大イベント「子ども会議フォーラム2025」を、たくさんの方々のご協力のおかげで開催することができました。「20年後の青森市のすがた」について意見を表明し、多くの方が聞いてくれたこと、自分たちの知らなかったことや、青森市が取り組んでいることを市長や理事者の皆さまから教えていただいたことがとてもうれしかったです。今年度は、新たにファシリテーターの先生に子ども会議フォーラムに向けた活動について、話し合い等をサポートしていただきました。ワークシートを使って自分の考えを整理することで、自分たちの思いをより分かりやすく伝えることができました。開催後には、アンケート結果をもとに振り返りを行い、ほめていただいたことがとても励みになり、また、これからの活動につながるアドバイスもいただきました。グループごとに意見交換もしました。来年度、もっと良いフォーラムにするための大切な時間になりました。

青森市子ども会議フォーラムを経てからの活動について、Let 'go! Town make グループでは、今年度行った様々な調査・研究をまとめ、「子どもの視点でつくる観光マップ」作りに取り組んできました。このマップには、青森駅周辺の駐車場と駐輪場の収容台数・利用料金や青森駅・新青森駅周辺のお土産店を調査し、実際に見て感じたおすすめポイントを添えて紹介しています。さらに、青森市のおすすめ観光スポットとして、実際に見学に行った「三内丸山遺跡」「リンクステーションヒルズ雲谷」のほか、自分たちがぜひおすすめしたい場所についても取り上げました。それぞれの施設の特徴や営業時間などを、青森市の地図と合わせて掲載しています。地図を見ることで、青森市にはさまざまな場所にたくさんの魅力があることが伝わるようにしました。工夫した点は、観光スポットまでの交通アクセスもあわせて載せたことです。バスや電車、フェリーや飛行機など、さまざまな交通手段で青森市を訪れる方が、「どこから、何を使えば行きやすいか」が分かるように調べてまとめました。少しでも利用しやすいマップになっていれらうれしいです。また、「青森市の食についても紹介したい」という意見も多く出ました。もし来年度など、また作成する機会があれば、ぜひ挑戦してみたいと思います。



続いて、青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～グループでは、もっと多くの人に、子どもの権利をPRしたいという思いから、子どもの権利をPRする市営バスを運行できることになりました。2月26日から約1か月、市内を実際に走っています。バスの車外には、自分たちで考えたデザイン案の中から、左右と後ろに貼る3種類を選びました。どの案も思いがこもっていて、選ばれなかったデザインも捨てがたかったので、車内の窓に貼ることにしました。また、バスの車内にもさまざまな工夫をしました。天井の側面に子どもの権利相談センターだよりや、子どもの権利に関するリーフレットを掲示しました。窓には、昨年度の子どもの会議で作成した「子どもの可能性新聞」を貼りました。さらに、手すりの邪魔にならない場所に、

ねぶた祭りでの子どもの権利普及活動の際に配布した「花笠マスコット」を飾りました。座席の後ろには、子ども会議の活動の輪を広げたいという思いから、子ども会議委員募集中のステッカーを貼っています。自分たちがデザインした市営バスが実際に運行していることは、とてもうれしいことです。このバスをきっかけに、少しでも多くの人に子どもの権利を知ってもらえたらうれしいなと思います。

そのほか、子どもの権利相談センターの紹介動画を作成し、子ども会議公式Instagramに投稿しました。動画は、「子どもの権利相談センターの概要紹介」、「相談対応者の紹介」、「相談の様子を紹介」の3種類を作成しました。工夫したことは、画面の中により多くの情報を分かりやすく入れられるよう、横長の動画にしたことです。また、字幕の色を話す人ごとに変えることで、見やすくなるよう工夫しました。大変だったことは、いくつかのパターンで撮影した動画の一つにまとめる編集作業や、字幕を入力する作業です。とても時間がかかりましたが、動画編集が得意な委員に使い方を教えてもらいながら、みんなで協力して完成させることができました。この動画を見た人が、「困ったことがあったら、ここに相談していいんだ」と思ってくれたらいいなと思います。

2月に開催を予定していた「子どもの権利トークイベント」は、大雪の影響により、やむを得ず中止となりました。昨年度と同様に「子どもの権利」について考えてもらえることを目的にしたイベントとして開催する予定でした。みんなで話し合い、考えながら活動した経験を生かして、来年度につなげていけたらと思います。

このように、「笑顔あふれる青森市」になることを目指して、私たち子どものパワーも加えて、より良い青森市にしていきたいという思いで、この1年間いろいろな活動を行うことができました。今年度の子ども会議では、普通ではできない経験ができたという意見や、みんなと協力して行ったイベントが楽しかったという意見が多く出ました。これまで積み重ねてきた活動を大切にしながら、新たな活動やイベントにも挑戦していきたいと思います。

青森市子ども会議フォーラム2025で、「20年後の青森市のすがた」についての意見表明に対し、西市長から「その時々で、どんなまちが求められているのかを考え、皆さんが意見を出していくことがとても重要だと思っている。」と感想をいただきました。今年度だけで終わらせるのではなく、来年度も継続して考え、行動していけるよう、続けて参加するメンバーが率先して考え、活動していきたいと思います。

今年1年間、私たち青森市子ども会議の活動にご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。

#### 令和7年度青森市子ども会議活動報告書の提出

発表が終わった後、「今年度、私たちが活動を楽しく活動できたのも、西市長をはじめ、みなさんのご協力をいただいたからです。ありがとうございました。」との言葉を添え、活動報告書を市長に手渡しました。あわせて、今年度作成した子どもの権利普及啓発Tシャツとコーヒーを持ったけんりはかせのコースターもプレゼントしました。



### 卒業委員から後輩委員へのメッセージ



まずは、8年間、子ども会議に所属させていただき、本当にありがとうございました。私が小学5年生の時は本当に緊張して誰とも話せず、先輩についていただけでしたが、子ども会議を通して自分の意見を話したり、後輩と接したりすることができるようになり、本当に自分の中で成長することができた8年間でした。そして、活動報告会の司会や、フォーラムの議長席に座らせていただいたこと、今年はバスのアナウンスの音声録音など、普通の高校生活ではできない体験をすることができて、本当に良い経験だと思っています。後輩たちもみんな優しくて素敵な人達ばかりなので、これから入ってくる後輩にとって、素敵な先輩になると思います。本当に8年間ありがとうございました。

### 後輩委員から卒業委員への感謝の言葉

ご卒業おめでとうございます。先輩とは少しの間しか一緒に活動できませんでしたが、マップ作りの時は優しく接してくれて嬉しかったです。高校生として積極的にアイデアを出してくれたり、進んで助けてくれたり、みんなを引っ張ってくれたりしてくれてとても尊敬しています。私も先輩と同じように後輩に優しく教えられるようになりたいと思います。長い間活動に取り組み、子ども会議を引っ張ってくれてありがとうございました。



### 市長からの感想



皆さん、ありがとうございました。素晴らしい発表を聞くことができました。第1回会議が6月、11月の子ども会議フォーラム、そして今日と、日を追って皆さんが成長していく姿を見ることができ、大変うれしく思っています。これまで、青森市をより良くするためにはどうしたらよいかを自分たちで考え、調べ、その成果を観光マップや動画という形でまとめたということは、とても良い経験になったのではないかと思います。また、青森市が笑顔あふれるまちになってほしいと皆さんが思っているように、私も同じ思いです。笑顔があれば人は明るくなりますし、大変なことがあっても笑顔を忘れない気持ちが何よりも重要だと思っています。そのことを自ら体験することができた1年間だったのではないかと感じています。

ワークシートを活用した話し合いや、アンケートによる意見の聞き取りなど、様々な取り組みを行ってきたと思います。こうした取り組みは、今後様々な場面で活用できます。皆さんが大人になってからも、多くの人々の意見を取り入れながら一つの考えとしてまとめていく場面において、今回の経験はきっと役に立つと思います。ぜひ、この経験を忘れずにいてほしいと思います。

観光マップについては、単なる地図ではなく、見た人が行ってみたいと思えるよう工夫されてお

り、そのために自分たちがまちの魅力を理解し、多くの魅力が伝わるように工夫したことがきちんと伝わってくるような内容でした。また、交通アクセスもあわせて掲載したことにより、こうすれば行くことができる」と具体的にイメージできることが非常に有効であったと思います。さらに、子どもの権利について、まだ知らないという人たちもいると思います。それを動画という形で情報発信を行ったことは、大きな広がり期待できることだと思っています。最近動画を活用した情報発信が広く普及しており、今後様々な場面で活用していけると思います。今年1年で学んだこと、吸収したことを、また来年以降にも生かしていただきたいと思っています。今日は本当にありがとうございました。

### 今年度の活動を振り返って

活動報告会を終え、会議室に戻り、まず卒業委員へ感謝の気持ちを込めたプレゼントを贈呈し、喜んでもらうことができました。その後、今年度の活動を振り返るためアンケートを実施しました。活動の中で「意見表明できた」「自分の意見が反映された・受け止めてもらえた」と実感できた委員が多く見られました。

これをもって、令和7年度の子ども会議の活動はすべて終了しました。  
みなさん、1年間お疲れさまでした。



## 令和7年度青森市子ども会議委員名簿

区分	氏名	学年
小学生	鈴木 怜	5年
	長崎 葵	5年
	樋口 愛莉	5年
	若井 こはに	5年
	小野 直仁	6年
	金澤 奈々	6年
	後藤 陽和	6年
	進藤 佐智乃	6年
	田崎 惺矢	6年
	千葉 心晴	6年
	中澤 晴	6年
	藤元 陽向	6年
	雪田 美月	6年
中学生	太田 寛人	1年
	薦谷 徠夢	1年
	宮崎 尊琉	1年
	野戸谷 芹那	2年
	小川 紗悠華	3年
	乙崎 陽夏乃	3年
	小野 結仁	3年
	後藤 美侑	3年
	舘山 隼杜	3年
	長谷川 巧	3年
高校生	阿部 要太	1年
	千葉 咲樂	1年
	横山 伊織	1年
	野戸谷 朱莉	2年
	奥谷 真央	3年
	細川 侑寧	3年

小学生13名、中学生10名、高校生6名 計29名

## 令和7年度青森市子どもサポーター名簿

氏名	所属先
木立 倭乎	明治大学
関 智朗	国立大学法人 金沢大学

氏名	所属先
諏訪 かほる	弘前総合医療センター附属看護学校

# 青森市子どもの権利条例

平成二十四年十二月二十五日

条例第七十三号

青森市は豊かな青い森に抱かれたまちです。森では、木々、草花、鳥や虫など数え切れない生きとし生けるものが生まれ、育まれています。これらが互いに深く結びつき、共に支え合う森は、新たないのちのゆりかごであり続けます。

私たちは、この青森市が、生きる力みなぎる子どもが育つ大きなゆりかごであって欲しいと願っています。

そこでは、子どもと大人が育ち合い、学び合う関係が大切にされなければなりません。そのことによって、子どもは、他者を尊重しながら共に支え合い、青森市の文化や伝統を受け継ぎ、未来を切り開いていくことができるのです。

日本は、世界の国々と児童の権利に関する条約を結び、子どもだからこそ認められるべき権利を保障し、自分らしく生きることを大切にすると約束しています。

市は、この条約に基づき「子どもに関係のあることを行うときには、子どもにとって今もっとも良いことは何かを第一に考える」という「子どもの最善の利益」（同条約第三条）を基本理念として、子どもが健やかに育つための環境づくりを進めてきました。

市が設置した青森市子ども委員会の子どもたちは、子どもの権利について学ぶ中で、「人はそれぞれ個性をもち、誰もが大切な存在として同じところ、違うところを認め合うことが大事である」、「大人は、子どもの意見に最後まで耳を傾けてほしい」、「ちょっとしたことでも、『あなたには、こういう良いところがある。』と言ってほしい」と宣言しています（平成二十三年三月子ども宣言文）。

私たちは、子どもが他者と共に生き支え合う市民として成長する青い森のまちづくりをめざし、子どもの権利を保障することを表明し、この条例を制定します。

## 第一章 総則

### （目的）

第一条 この条例は、子どもが愛情をもって生まれ、毎日をのびのびと生き、自分らしく豊かに成長し、発達していくことができるよう、子どもにとって大切な権利の保障を図ることを目的とします。

### （定義）

第二条 この条例で、次に掲げる用語の意味は、それぞれ次に定めるとおりとします。

- 一 子ども 十八歳未満の人その他これと等しく権利を認めることが適当であると規則に定める人をいいます。
- 二 大人 過去に子どもであった全ての人をいいます。
- 三 保護者 親や親に代わり子どもを養育する人をいいます。
- 四 育ち学ぶ施設 保育所、学校、児童養護施設その他子どもが育ち、学ぶことを目的として通園し、通学し、入所し、利用する施設をいいます。

### (基本的な考え方)

第三条 子どもの権利の保障は、次の基本的な考え方に従って進められなければなりません。

- 一 子どもの最善の利益を優先して考えること。
- 二 子ども一人一人が権利の主体として尊重されること。
- 三 子どもの成長と発達に配慮した支援が行われること。

### (大人の責務)

第四条 保護者は、子育ての第一の責任者として、子どもの権利を尊重しなければなりません。

- 2 育ち学ぶ施設の関係者は、子どもが自分らしく成長し、発達していくために育ち学ぶ施設が大切な役割を持つことを認識し、子どもの権利を尊重しなければなりません。
- 3 地域住民は、地域が子どもの成長と発達にとって重要な場であることを認識し、子どもの権利を尊重しなければなりません。
- 4 第一項の保護者、第二項の育ち学ぶ施設の関係者、第三項の地域住民のほか、大人は子どもの権利を尊重しなければなりません。

## 第二章 子どもにとって大切な権利

### (子どもにとって大切な権利の保障と互いの権利の尊重)

第五条 子どもには、成長し、発達していくために、この章に定める大切な権利が保障されなければなりません。

- 2 子どもは、自分の権利が尊重されるのと同じように、他人の権利を尊重しなければなりません。

### (安心して生きる権利)

第六条 子どもには、安心して生きるために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 命が守られ、平和で安全な環境のもとで暮らすこと。
- 二 愛情をもって育まれること。
- 三 食事、医療、休息が保障され、健康的な生活を送ること。
- 四 いじめ、虐待、体罰その他身体的、精神的暴力と有害な環境から守られること。
- 五 性別、国籍、障害などを理由に、いかなる差別も受けないこと。
- 六 困っているときや不安に思っているときには、相談し、支援を受けることができること。

### (自分らしく生きる権利)

第七条 子どもには、自分らしく生きるために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 自分の個性や他人との違いを認められ、一人の人間として尊重されること。
- 二 自分自身の夢や希望を持ち、可能性に挑戦すること。
- 三 プライバシーや自らの名誉が守られること。
- 四 自分が思ったことや感じたことを表現すること。
- 五 自分にとって必要な情報や知識を得ること。
- 六 自分にとって大事なことを年齢や成長に応じて、適切な助言や支援を受け、自分で決めること。
- 七 安心して過ごすことができる時間や居場所を持つこと。

#### (豊かで健やかに育つ権利)

第八条 子どもには、豊かで健やかに育つために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 遊ぶこと。
- 二 学ぶこと。
- 三 芸術やスポーツに触れ親しむこと。
- 四 青森の文化、歴史、伝統、自然に触れ親しむこと。
- 五 まちがいや失敗をしたとしても、適切な助言や支援を受けることができること。

#### (意見を表明し参加する権利)

第九条 子どもには、他人の意見を尊重しつつ、自分の意見を表明し、社会に参加するために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 家庭、育ち学ぶ施設、地域などで、自分の意見を表明すること。
- 二 自分にとって重要な決定が行われる場合は、自分の意見を主張できること。
- 三 自分の表明した意見に対し、適切に配慮されること。
- 四 仲間をつくり、集まり、活動すること。

### 第三章 子どもにとって大切な権利の保障に関する市の責務と取組

#### (子どもの権利の普及啓発と学習支援)

第十条 市は、子どもの権利の普及を図るため、子どもと大人が共にこの条例と子どもの権利について適切に学び、理解するための機会を提供するものとします。

- 2 市は、毎年十一月二十日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うものとします。

#### (子どもの育ちへの支援)

第十一条 市は、子どもの豊かな育ちを支援するため、次のことに取り組むよう努めなければなりません。

- 一 子どもに健全で多様な生活体験や交流の場と機会を提供すること。
- 二 子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりを進めるとともに、子どもが相談できる場と意見表明し社会に参加する機会を提供すること。

#### (保護者への支援)

第十二条 市は、保護者が安心して子育てができるよう支援に努めなければなりません。

- 2 市は、特別に支援が必要な保護者に対しては、それに応じた支援に努めなければなりません。

#### (子どもの命と安全を守る取組)

第十三条 市は、いじめ、虐待、体罰その他身体的、精神的暴力の防止と早期発見に努めるとともに、それら子どもの権利の侵害からの救済に必要な取組を実施するものとします。

- 2 市は、子どもが薬物、犯罪などの被害を受けないように、必要な取組を実施するものとします。

#### (子ども会議)

第十四条 市は、市政などについて、子どもが意見を表明し参加する場として、青森市子ども会議（以下「子ども会議」といいます。）を置きます。

- 2 市は、子どもに関わることを検討するときは、子ども会議の意見を尊重するよう努めなければなりません。

#### (子どもの権利の保障の行動計画と検証)

第十五条 市は、この条例の目的を達成するため、子どもの権利の保障に関する行動計画（以下「行動計画」といいます。）を定めるものとします。

- 2 行動計画の検証は、青森市健康福祉審議会条例（平成十八年青森市条例第四十三号）に定める児童福祉専門分科会で行うものとします。
- 3 行動計画の検証を実施するに当たっては、子ども会議の意見を尊重するよう努めなければなりません。

### 第四章 子どもにとって大切な権利の侵害からの救済と回復

#### (相談と救済)

第十六条 市は、子どもの権利の侵害に関する相談や救済について、関係機関などと相互に協力と連携を図るとともに、子どもの権利の侵害の特性に配慮した対応に努めなければなりません。

#### (子どもの権利擁護委員)

第十七条 市長は、子どもの権利の侵害について、子どもやその関係者から相談や救済の申立てを受け、その救済と権利の回復のために必要な調査、助言、支援などを行い、これらの調査などの結果を踏まえた是正措置や制度改善の勧告や要請を行うなどのため、青森市子どもの権利擁護委員（以下「委員」といいます。）を置きます。

#### (委員の職務)

第十八条 委員の職務は、次に掲げるとおりとします。

- 一 子どもやその関係者から相談を受け、助言、支援、関係者間の調整を行うこと。
  - 二 子どもやその関係者から救済の申立てを受け、事実の調査や関係者間の調整を行うこと。
  - 三 子どもやその関係者から救済の申立てがなくても、その救済と権利の回復のために必要があると認めるときは、事実の調査や関係者間の調整を行うこと。
  - 四 第二号、第三号の規定による調査などの結果、必要があると認めるときは、是正措置や制度改善について、関係する市の機関に対する勧告や市の機関以外のものに対する要請を行うこと。
  - 五 第四号の規定により勧告や要請を行った後に、必要があると認めるときは、その是正措置などの状況に関しこれらの勧告などを受けたものに報告を求め、その内容を救済の申立てを行った人などに伝えること。
- 2 委員は、第一項第二号、第三号の事実の調査を次の方法により行うことができます。
    - 一 関係する市の機関に対し説明を求め、その保有する文書その他の記録の閲覧や提出を要求し、実際に調査すること。
    - 二 必要な限度において市の機関以外のものに対し、資料の提出、説明その他の必要な協力を求めること。

#### (委員の人数、任期など)

第十九条 委員は、三人以内とします。

- 2 委員は、人格が優れ、子どもの権利に関し専門的知識と経験を持つ人のうちから、市長が委嘱します。
- 3 委員の任期は三年とし、再任を妨げません。
- 4 委員は、職務上知ることができた秘密を漏らしてはなりません。委員の職を離れた後も同様とします。
- 5 委員は、第四項に定めるもののほか、その職務を遂行するに当たって、次のことを守らなければなりません。
  - 一 子どもやその関係者の人権について、十分に配慮すること。
  - 二 相談や救済の申立てなどの内容に応じ、関係機関などと協力して、その職務を行うこと。
- 6 市長は、委員が第四項前段の規定に違反したことが判明したときやその職務の遂行に必要な適格性を欠くと認めるときは、これを解嘱するものとします。

#### (勧告の尊重と委員への協力)

第二十条 第十八条第一項第四号の規定により勧告を受けた市の機関は、その勧告の内容を十分に尊重しなければなりません。

- 2 第一項に定めるもののほか、市の機関は、委員の職務に積極的に支援や協力をしなければなりません。
- 3 市の機関以外のものは、委員の職務に協力をするよう努めなければなりません。

#### (調査相談専門員)

第二十一条 市長は、子どもの権利の侵害について、子どもやその関係者から相談を受け、委員と連携し、必要な調査、助言、支援を行うため、調査相談専門員を置きます。

### 第五章 雑則

#### (委任)

第二十二条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定めます。

#### 附 則

#### (施行期日)

この条例は、公布の日から施行します。ただし、第四章の規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において規則で定める日から施行します。



# 青森市民憲章

わたくしたちは、青い空、青い海、青い森にいだかれ、悠久の歴史と香り高い文化と伝統に満ちた青森市の市民です。

わたくしたちは、郷土あおもりを心から愛し、夢と希望にあふれたしあわせなまちとするためこの憲章を定めます。

- 1 自然をたいせつにし  
美しいまちにしましょう
- 1 元気に働き  
活気のある豊かなまちにしましょう
- 1 たがいに助け合い  
あたたかいまちにしましょう
- 1 笑顔でふれあい  
明るく平和なまちにしましょう
- 1 楽しく学び  
いきがいをを感じるまちにしましょう

平成 17 年 4 月 27 日制定



市の木  
【あもりとどまつ】



市の花  
【はまなすの花】



市の鳥  
【ふくろう】



市の昆虫  
【ホタル】



青森市子ども会議考案キャラクター

「けんりはかせ」

令和7年度  
青森市子ども会議活動報告書

青森市こども未来部こども・若者政策課  
〒030-0801 青森市新町一丁目3番7号  
TEL : 017-734-5320 / FAX : 017-763-5678  
HP <https://www.city.aomori.aomori.jp/>